

# 見たい！知りたい！九州農業

## 〈今年の話題〉 畜産王国九州

# 2021



令和3年7月

農林水産省  
九州農政局



# 目次

## 第1章 今年のお話

畜産王国九州	2
--------	---

## 第2章 統計から見たい

### 構造

九州農業の特徴	10
農業産出額	12
農業経営体	14
耕地面積	15

### 生産

米	16
麦類・大豆	17
野菜	18
果樹	19
花き	20
地域特産作物	21
畜産	23

## 第3章 施策を知りたい

### 食

農林水産物・食品の輸出拡大	28
和食文化の保護・継承	32
食育	33
消費者の信頼確保	34
農畜産物の防疫対策	36
食品ロスの削減	39

### 産業

6次産業化	40
地産地消	41
知的財産の活用	42
需要に応じた米の生産	43
米粉	44
水田農業における高収益作物の導入	45
園芸作物の生産体制強化	46
経営所得安定対策等	47
農業生産工程管理（GAP）	48
スマート農業の推進	49
農産物・食品流通の合理化	51

### 人

人・農地プランの実質化	52
認定農業者制度	53
農業経営の法人化	54
新規就農	55
女性農業者の活躍	56
農業分野における外国人材の受入れ	57

### 農地

担い手への農地集積・集約化	58
基盤整備	59
荒廃農地解消の取組	60
国営土地改良事業等	61
農業水利施設等	62

## 地域（農村）

棚田を含む中山間地域等の活性化	63
農業・農村の多面的機能と環境保全	65
環境保全型農業	67
鳥獣被害対策	68
ジビエ利用拡大	69
再生可能エネルギーの利用（バイオマス）	70
かんがい施設	71
むらの宝	72
農業遺産	73
農泊の推進	74
農業と福祉との連携	76

## 災害・新型コロナウイルスへの対応

自然災害	77
災害への備え	79
新型コロナウイルス感染症拡大への対応	84

### 【参考】

県別・市町村別の農業産出額	85
---------------	----

## 第4章 取組事例を知りたい

### 食

農林水産物・食品の輸出	98
食育	99
フードバンクの取組の推進	100

### 産業

6次産業化	101
知的財産を活用した取組	103
高収益作物の導入	104
園芸	105
畜産	106
GAPの取組	107
スマート農業の推進	108

### 経営

法人経営	109
新規就農	110
女性の活躍	111
農業分野における外国人材の受入れ	112

### 農地

担い手への農地集積・集約化	113
高収益な農業の実現	115
国営土地改良事業等	116

## 地域（農村）

棚田を含む中山間地域	117
鳥獣被害対策	118
ジビエ利用拡大	119
農泊推進	120
農福連携	121

## 災害への備え

122

- 図表の数値は、原則として四捨五入しており、合計とは一致しない場合があります。
- 本資料発行後、数値が概数値から確定値となる等によりかわる場合がありますので、利用に当たっては、各種報告書又は農林水産省（九州農政局）のウェブサイト上で提供している統計データ、関係資料をご確認下さい。

# 第1章 今年の話題

# 今年の話題 — 畜産王国九州 —

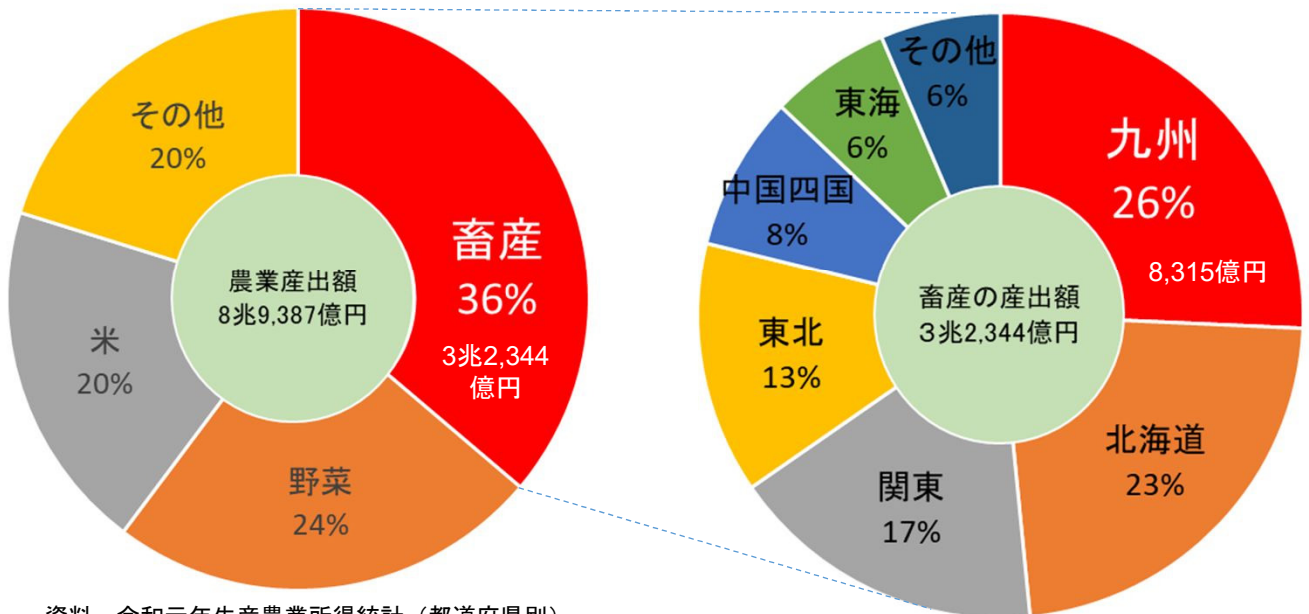
## 【九州は我が国最大の畜産物供給基地】

全国の令和元（2019）年農業産出額（約9兆円）のうち、畜産は約4割（約3兆円）を占めていますが、九州は全国の畜産の農業産出額の約3割（約8千億円）を占める我が国最大の畜産物供給基地となっています。

全国における九州の畜種別農業産出額の占める割合は、肉用牛が約4割、豚が約3割、ブロイラーが約5割となっています。

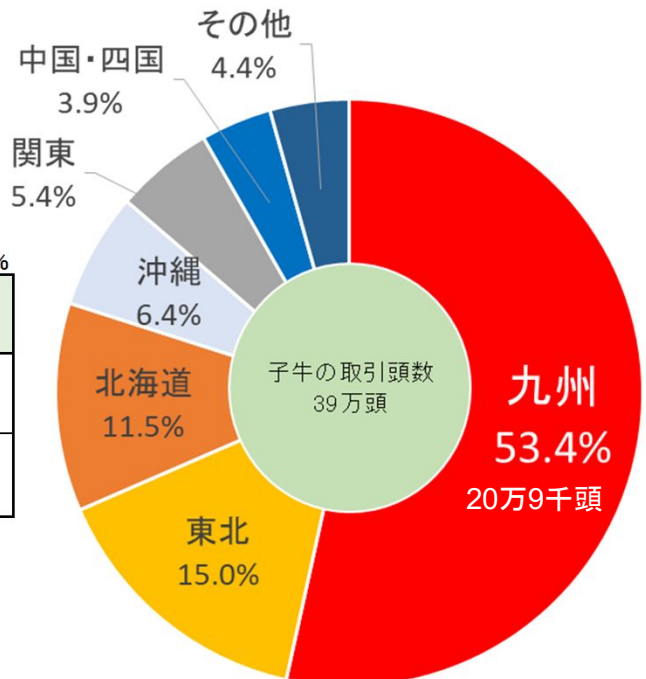
また、全国の家畜市場における肥育素牛（子牛）取引の約5割が九州で行われているなど、全国の和牛生産の供給源にもなっています。

### ○ 農業産出額に占める畜産及び九州の割合（令和元年）



資料：令和元年生産農業所得統計（都道府県別）

### ○ 全国の家畜市場における黒毛和種等「子牛」の取引割合（令和元年）



### ○ 畜種別の九州管内の農業産出額（令和元年）

単位：億円、%

	肉用牛	乳用牛	豚	ブロイラー	鶏卵
全国	7,482	9,353	6,122	3,510	4,595
九州	3,119 (41.7)	801 (8.6)	1,869 (30.5)	1,704 (48.5)	643 (14.0)

( )内は全国に占める九州の割合

資料：令和元年生産農業所得統計（都道府県別）

資料：全国家畜市場の概要（令和元年）



## 【畜産の農業産出額は年々拡大。鹿児島県・宮崎県は6割超】

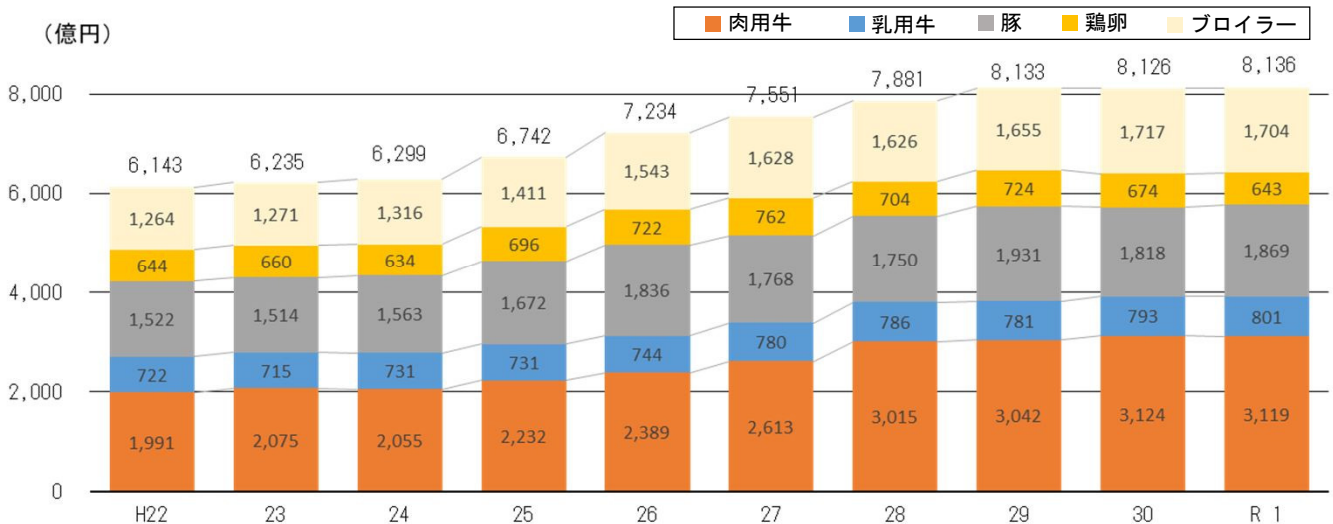
九州の畜産の農業産出額は、平成22（2010）年4月に宮崎県で発生した口蹄疫の影響からの回復、国内の畜産物の堅調な需要を背景に、平成22（2010）年以降、増加傾向で推移しています。

九州各県の全国における畜種別順位を見ると、どの畜種も上位に九州のいずれかの県が含まれており、主要な産地となっています。

特に、鹿児島県、宮崎県は畜産の占める割合が6割を超えており、農業の中でも畜産が基幹産業となっています。

### ○ 九州における過去10年の畜種別農業産出額の推移

（億円）



資料：生産農業所得統計（都道府県別） 注：その他畜産物を除く

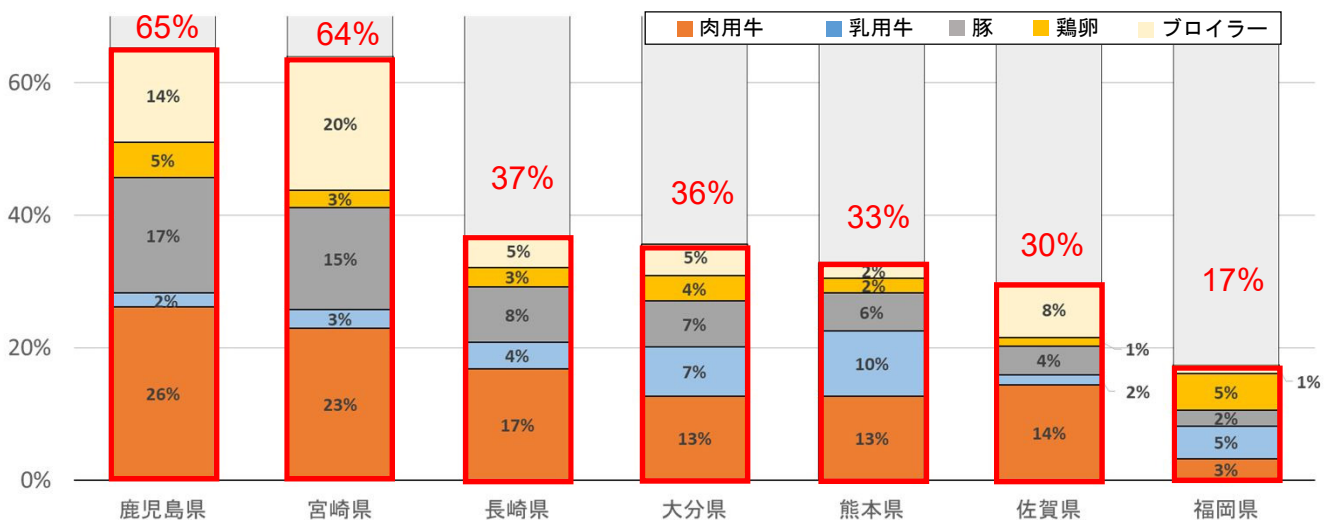
### ○ 九州各県の全国における畜種別農業産出額の順位（令和元年）

単位：億円、%

肉用牛		乳用牛		豚		ブロイラー		鶏卵	
全国順位	産出額	全国順位	産出額	全国順位	産出額	全国順位	産出額	全国順位	産出額
全国	7,482 (100.0)	全国	9,353 (100.0)	全国	6,122 (100.0)	全国	3,510 (100.0)	全国	4,595 (100.0)
鹿児島県	1位 (1.7)	熊本県	3位 (3.5)	鹿児島県	1位 (13.8)	鹿児島県	1位 (19.8)	鹿児島県	3位 (5.7)
宮崎県	3位 (10.4)	鹿児島県	14位 (1.1)	宮崎県	2位 (8.5)	宮崎県	2位 (19.6)	福岡県	19位 (2.4)
熊本県	4位 (5.7)	福岡県	15位 (1.1)	熊本県	11位 (3.2)	佐賀県	6位 (2.6)	宮崎県	21位 (1.9)

資料：令和元年生産農業所得統計（都道府県別）

### ○ 九州各県の農業産出額に占める畜産の割合（令和元年）



資料：令和元年生産農業所得統計（都道府県別） 注：その他畜産物を除く

## 【生産現場における多様な取組】

生産現場では、消費者のニーズの高度化・多様化に対応した畜産物のブランド化や6次産業化、品質に優れた畜産物を求める海外の需要に対応した海外市場の開拓に取り組む動きが出てきています。

また、持続可能な循環資源型畜産を目指した食品リサイクルの取組も進められています。

## 【和牛のブランド化】

大分県では、消費者の多様なニーズに応え、高級ブランドによる更なる差別化を図るため、2018年から「おおいた豊後牛」の中でも肉質4等級以上のものについて、新たに「おおいた和牛」のブランドを立ち上げています。

佐賀県では、JAグループ佐賀管内で飼育された和牛のうち、4等級の脂肪交雑No7以上の基準を満たすものを「佐賀牛」としていますが、それ以外の2～4等級のものについては「佐賀産和牛」として新たにブランド化することで、「佐賀牛」のブランド価値を高めるとともに、手頃な価格での和牛ニーズにも対応しています。

また、海外展開を視野に、ブランドの名称を海外でも保護し、他産地との差別化を図るため、熊本県では「くまもとあか牛」、宮崎県では「宮崎牛」、鹿児島県では「鹿児島黒牛」の和牛ブランドをGI（地理的表示）として登録しています。

### ○ 九州管内の和牛ブランドの事例（出典：銘柄牛肉ハンドブック2021 食肉通信社）



品種：黒毛和種  
格付等級：4等級以上  
特徴：品質の高い豊後牛の中でもおいしさにこだわった牧場で育てられた肉質4等級以上のものだけを選んだもの  
年間出荷頭数：6,300頭



品種：黒毛和種  
格付等級：4等級脂肪交雑No7以上  
特徴：「艶さし」といわれる風味ただよ脂肪と柔らかく鮮やかな赤みが織りなす見事な霜降り肉  
年間出荷頭数：11,000頭



品種：褐毛和種  
飼育管理：県内12か月以上肥育、最長かつ最終飼養地が熊本県内  
特徴：適度な霜降りと赤身の特徴的な味わい  
ヘルシーさを兼ね備え、牛肉らしいうま味や香りに富む  
年間出荷頭数：3,400頭



品種：黒毛和種  
飼育管理：県内産、県内で育成・肥育  
特徴：長年の改良による優秀な系統の黒毛和種  
風味豊かでとろけるような柔らかさとうまさ  
年間出荷頭数：18,200頭



品種：黒毛和種  
飼育管理：指定肥育地、鹿児島県内  
特徴：きめ細かいやわらかい肉質  
バランスの良い霜降肉のおいしさ  
年間出荷頭数：24,000頭



### 【飲用乳の輸出に取り組む酪農協同組合】

- 熊本県酪農業協同組合連合会（らくのうマザーズ）
  1. 所在地：熊本県熊本市
  2. 生産農家戸数：452戸（令和3（2021）年4月1日現在）
  3. 取組の特徴

乳牛の飼養・管理技術の指導から乳製品の製造販売までを一貫して行っています。日本では流通量が少ない長期保存可能な牛乳（LL牛乳）を製造し、香港等への輸出も行うなど、輸出拡大に取り組み、2020年度の輸出額、量ともに前年の約2倍に伸びています。

熊本県酪農業協同組合連合会輸出実績

	2018年度	2019年度	2020年度
輸出額 (対前年比)	47,515千円 (124%)	71,524千円 (151%)	143,422千円 (201%)
輸出量 (対前年比)	231t (120%)	367t (159%)	801t (218%)



LL牛乳の製造ライン

### 【食品リサイクルに取り組む養豚農家】

- セブンフーズ株式会社
  1. 所在地：熊本県菊池郡大津町、菊池市、阿蘇市
  2. 飼養頭数：2万5千頭
  3. 出荷頭数：年間5万頭
  4. 取組の特徴



液体飼料の給与

耕種農家や食品会社などの連携による資源循環型農業を実践しています。食品リサイクルについては、大手冷凍食品会社等30数社と契約し、食品残さを液体飼料に加工・給与しています。

### 【外食産業と連携した地鶏肉のブランド化に取り組む事業協同組合】

- みやざき地頭鶏<sup>じとこ</sup>事業協同組合
  1. 所在地：宮崎県宮崎市
  2. 生産者数：38戸
  3. 出荷羽数：年間42万羽
  4. 取組の特徴



「みやざき地頭鶏」の安定的な生産と全国的な販売流通展開を図るため、積極的に活用する飲食店を登録の上、ホームページで公表しています。また、飲食店にPR販促物を使用してもらうことで、全国的な知名度を上げる取組を実施しています。現在、登録を受けた飲食店は、全国188箇所の上っています。

### 【高付加価値卵を活用し6次化に取り組む鶏卵農家】

- 有限会社 鈴木養鶏場
  1. 所在地：大分県速見郡日出町
  2. 飼養羽数：成鶏16万羽
  3. 取組の特徴



「豊の米卵」



米を給与した卵のロールケーキ

平成18（2006）年から採卵鶏に飼料用米を給与し、高付加価値卵「豊の米卵」として、県内の百貨店等で販売しています。

また、規格を外れた卵をロールケーキやスイーツに加工し、農場に併設して開設した直販所で販売しています。

## 【畜産王国を支える九州農政局の取組】

九州農政局では、国内外での畜産物のニーズの高まりに対応し、より安定的な畜産物の供給を図るため、経営基盤の強化（畜舎・機器等の整備）、国産飼料に立脚した資源循環型畜産への転換を推進しています。また、畜産農家の経営努力ではカバーしきれない畜産物の知的財産の保護や輸出の戦略的拡大に取り組んでいます。

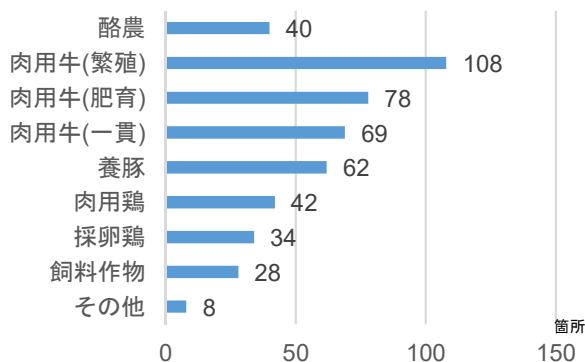
## 【経営基盤の強化】

九州の畜産経営基盤の強化を図るため、中心的経営体に対し、「畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業」により収益力強化に必要な畜舎や機械の整備を支援し、「生産基盤拡大加速化事業」により、繁殖雌牛や乳用後継牛の増頭に奨励金の交付を行っています。

その際、畜産農家と地域の畜産関係者（コンストラクター等の支援組織、流通加工業者、農業団体、行政等）を、ぶどうの房（クラスター）のように一体的に結集させ、地域全体で収益性向上を図る畜産クラスターの取組を推進しています。

令和2（2020）年現在、九州で195の畜産クラスター協議会が設立されています。

九州の畜産クラスター協議会数（令和2(2020)年 計195箇所）



注：複数の畜種を取組の対象とする協議会があるため、上記図の箇所数合計は協議会数と同じにならない



環境自動制御型牛舎



自動給餌器



搾乳ロボット



自動餌寄せロボット

## 【離島地域における肉用牛の生産基盤の強化】

### ○ 五島地域畜産クラスター協議会

1. 所在地：長崎県五島市、南松浦郡新上五島町
2. 肉用繁殖雌牛農家戸数：283戸
3. 肉用牛繁殖雌牛飼養頭数：4,793頭
4. 取組内容



補助事業で整備した牛舎

長崎県の離島である五島地域では肉用牛の増頭を図るため、平成27（2015）年3月に畜産農家、市町、農協等の関係者の協議会を設立しました。

これまでに「畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業」を活用し、27棟の牛舎を整備しました。

その結果、平成26（2014）年度には約4千頭まで減少していた肉用繁殖雌牛頭数は、目標頭数である5千頭に向けて順調に増加しており、令和2（2020）年4月現在で4,793頭に達しています。

五島地域における肉用繁殖雌牛飼養頭数の推移

（各年度4月1日付け 長崎県調べ 単位：戸、頭）

年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31(R1)	R2
飼養戸数	328	322	308	294	287	288	281	283	283
繁殖雌牛頭数	4,219	4,161	3,995	4,030	4,083	4,150	4,322	4,643	4,793

### 【国産飼料に立脚した資源循環型畜産への転換】

和牛の増頭、生乳生産の増産による飼料需要の拡大が見込まれる中、輸入飼料への過度の依存から国産飼料に立脚した資源循環型畜産への転換を図るため、

- ・国産粗飼料の生産・利用
  - ・耕作放棄地等を活用した放牧
  - ・ICT等を活用した効果的な栽培技術
  - ・資源循環型の飼料生産
- を推進することが求められています。

九州農政局では、これらの課題に対し、

- ・草地等の基盤整備
  - ・飼料用米・WCS用稲や国産稲わらの耕畜連携を目指した需要者・供給者のマッチング
  - ・「畜産生産力・生産体制強化対策事業」による耕作放棄地等を活用した放牧拡大
  - ・外部支援組織の強化の支援
  - ・先進的な取組事例等の情報発信
- をしています。

また、管内各県、農業団体等で構成する「九州地域飼料増産行動会議」を設置し、情報共有や意見交換を行っています。

### 【耕作放棄地を活用した肉用牛の繁殖の取組】

○有限会社 富貴茶園

1. 所在地：大分県豊後高田市
2. 放牧開始年：平成17（2005）年
3. 取組の特徴

平成17（2005）年、茶園に隣接する放棄地（林地）において繁殖牛3頭で試験的に放牧を行ったところ、省力的な肉用牛繁殖に目処がついたことから、平成18（2006）年、簡易牛舎の整備とともに繁殖牛2頭を新たに導入し、本格的に肉用牛繁殖経営を開始しました。

その後、「国産粗飼料増産対策事業」等により、耕作放棄地を活用して放牧地の面積を拡大しつつ、生産コストを6割削減することに成功しました。

省力的な周年親子放牧体系を確立し、現在では繁殖牛50頭まで増頭しているところです。



耕作放棄地を活用した放牧地



親子放牧

富貴茶園の放牧面積等の推移

	2005年	2008年	2015年	2020年
放牧面積	5ha	12ha	17ha	22ha
放牧頭数	3頭	8頭	22頭	50頭

### 【家畜人工授精所への立入検査による知的財産の保護】

九州には、全国の約4割を占める家畜人工授精所があります。

九州農政局では、和牛遺伝資源の適切な流通管理及び知的財産としての価値の保護強化のため、令和2（2020）年から、家畜人工授精所への立入検査を実施しています。

全国	4,295 箇所
九州	1,686 箇所
(九州/全国)	(39%)
福岡県	19 箇所
佐賀県	59 箇所
長崎県	236 箇所
熊本県	190 箇所
大分県	187 箇所
宮崎県	296 箇所
鹿児島県	699 箇所

家畜人工授精所箇所数  
(2021.4.1現在)



家畜人工授精用精液の  
保管状況の確認



## 【輸出の戦略的拡大】

九州は牛肉の主要産地であり、我が国の牛肉輸出施設の多くは九州にあります。特に、高度な衛生条件をクリアした米国、EU向け認定施設の約半数は九州に集中しています。

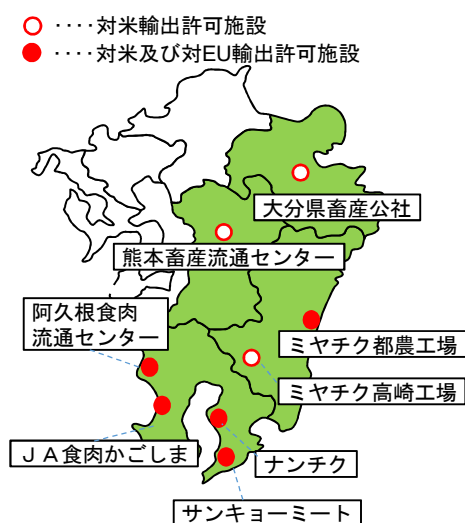
また、畜産物は、農林水産物・食品の輸出額を2030年までに5兆円とする「輸出拡大実行戦略」において、海外で評価される輸出拡大余地の大きい重点品目に選定され、輸出向けの生産を行う輸出産地として、九州では17産地がリスト化されています。

九州農政局では、輸出拡大に向けて、「畜産物輸出コンソーシアム推進対策事業」により、産地ごとに生産から輸出まで一貫して輸出促進を図る体制（コンソーシアム）の構築、コンソーシアムが実施する商談、産地の特色を活かしたプロモーション等を支援しています。

- 牛肉輸出認定施設（対米、対米及びEU向け）の数及び九州管内の所在地（R2. 10. 31現在）

	対米施設	
	対米施設	対EU施設
北海道	1	1
東北	1	—
関東	2	2
東海	1	1
近畿	2	2
中国四国	—	—
九州	8	5
沖縄	—	—
全国計	15	11

資料：アメリカ合衆国向け輸出食肉取扱施設リスト（R2. 6. 17現在）  
欧州連合向け輸出食肉取扱施設リスト（R2. 10. 30現在）



- 輸出拡大実行戦略における畜産品の輸出目標額

品目	目標額(2025年)	海外で評価される日本の強み
牛肉	1,600億円	和牛として世界で認められ、人気が高い
豚肉	29億円	とんかつ、焼き鳥など日本の食文化とあわせて
鶏肉	45億円	海外の日本ファンにアピール
鶏卵	63億円	半熟たまごが浸透し、生食できる卵としての品質が評価
牛乳・乳製品	328億円	香港や台湾で品質が高評価

資料：農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略

- 輸出拡大実行戦略に基づきリスト化された九州の畜産品の輸出産地

品目	産地数	所在県
牛肉	7	熊本県1(菊池市)、大分県1(豊後大野市)、宮崎県1(都城市)、鹿児島県4(曾於市、志布志市、阿久根市、南九州市)
豚肉	4	鹿児島県4(曾於市、志布志市、阿久根市、肝付町)
鶏肉	4	福岡県1(久留米市)、宮崎県1(川南町・都城市)、鹿児島県2(出水市、霧島市)
鶏卵	1	宮崎県1(都城市)
牛乳・乳製品	1	熊本県1(菊池市)

資料：輸出産地リスト（R3. 5. 27現在）

## 第2章 統計から見たい



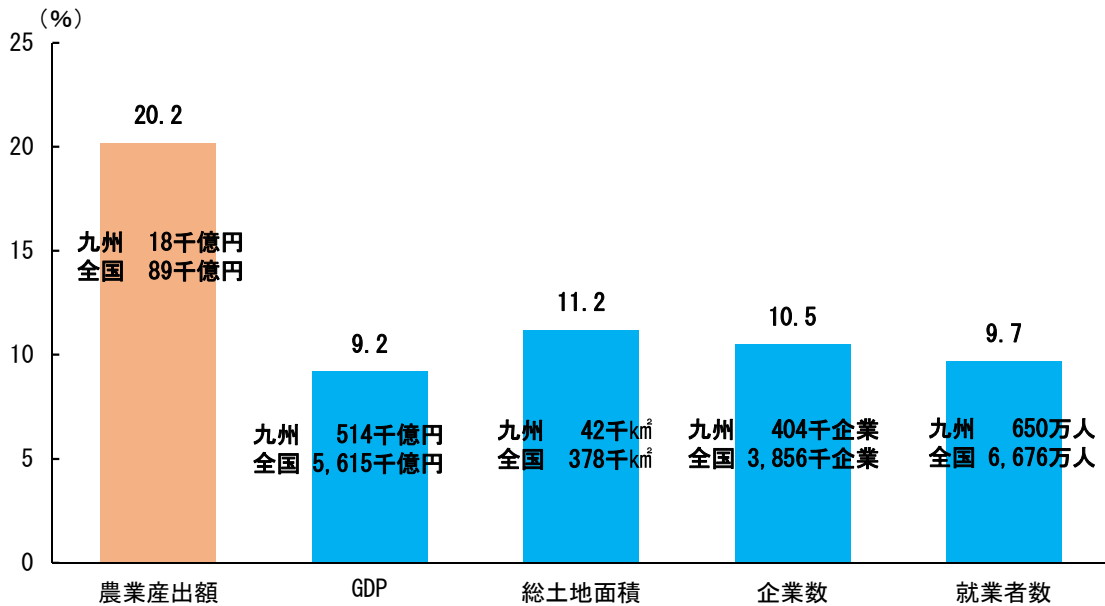
# 構造 — 九州農業の特徴 —

## 【九州は日本の食料基地】

農業が盛んな九州は日本の食料基地となっており、「全国の1割経済」といわれている中、農業産出額では全国の2割を占めています。

また、県民経済計算（県民総生産）の産業別割合から計算した特化係数をみると、九州は全国の中でも農業のウエイトが大きい地域であることが分かります。

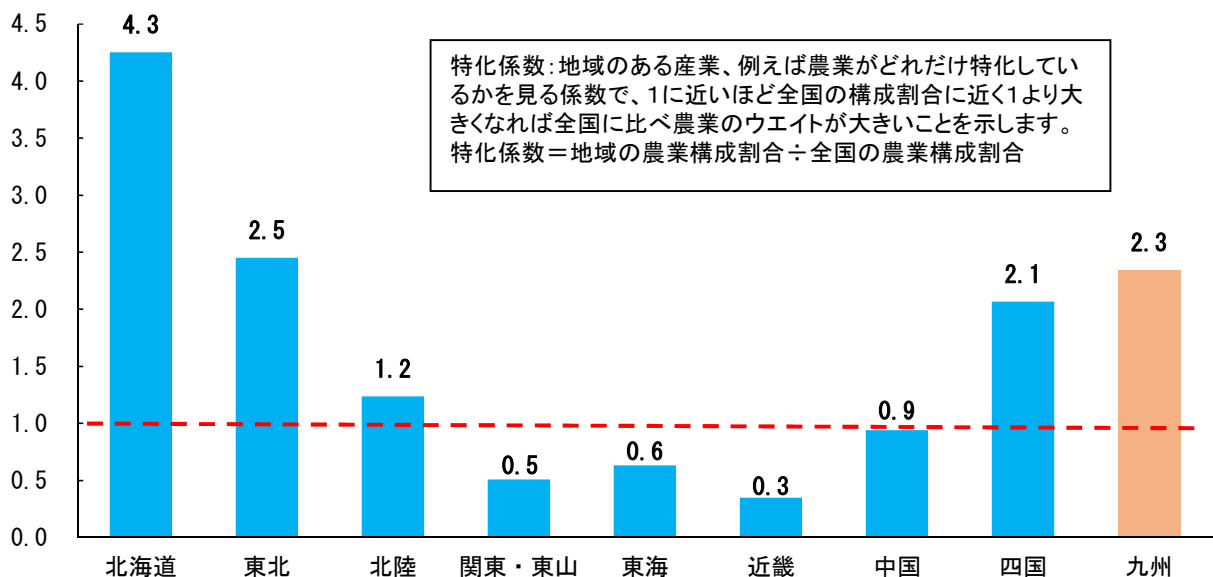
全国に占める九州の割合



資料：農林水産省「令和元年生産農業所得統計」、内閣府「平成29年県民経済計算」  
 国土地理院「令和2年都道府県市町村別面積調」、総務省「平成28年経済センサス活動調査」  
 総務省統計局「令和2年労働力調査」

注：農業産出額とは、農業生産活動による最終生産物の総産出額であり、品目別の生産量に農家庭先価格を乗じて得た額を合計したもの（売上総額のイメージ）。  
 農業産出額の全国は都道府県計、GDPの全国は県民総生産の都道府県計。

県民経済計算からみた農業の特化係数



特化係数：地域のある産業、例えば農業がどれだけ特化しているかを見る係数で、1に近いほど全国の構成割合に近く1より大きくなれば全国に比べ農業のウエイトが大きいことを示します。  
 特化係数＝地域の農業構成割合÷全国の農業構成割合

資料：内閣府「平成29年県民経済計算」

### 【野菜、畜産などの全国上位を占める】

部門別農業産出額の全国に占める割合をみると、畜産や工芸農作物では約3割を占め、野菜、果実など様々な品目が全国順位で上位となっています。

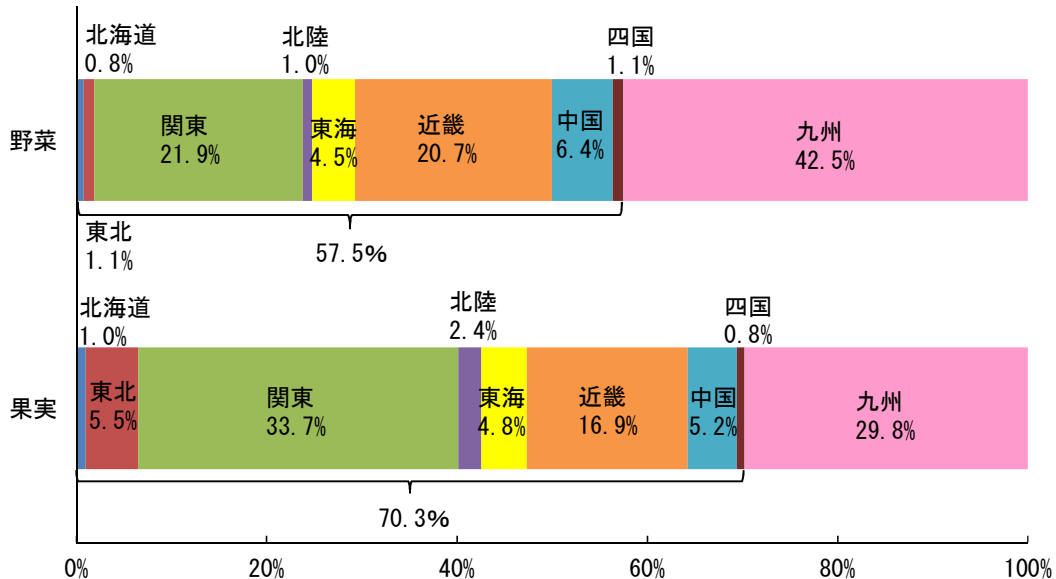
また、市場出荷された九州産の青果物は、その多くが九州以外の地域へ出荷されており、野菜は九州以外が57.5%で、関東が21.9%、近畿が20.7%となり、果実は九州以外が70.3%で、関東が33.7%となっています。

部門別農業産出額の全国に占める九州の割合および主要品目別の全国上位県

	九州の割合	九州の割合		主産地		
		品目	全国シェア	県名	全国シェア	全国順位
野菜	19.6	ピーマン	38.8	宮崎	22.0	2
		いちご	35.7	福岡	12.0	2
		アスパラガス	29.9	佐賀	9.6	2
		トマト	28.8	熊本	18.9	1
		すいか	27.0	熊本	21.8	1
		きゅうり	24.1	宮崎	13.4	1
		なす	22.8	熊本	11.5	2
		果実	14.8	なつみかん	67.3	鹿児島
不知火（デコボン）	65.3			熊本	42.0	1
マンゴー	64.0			宮崎	53.3	1
びわ	52.9			長崎	35.3	1
みかん	33.8			熊本	9.8	4
工芸農作物	32.0	葉たばこ	47.2	熊本	17.6	1
		茶（生葉）	44.6	鹿児島	31.2	1
		さとうきび	41.6	鹿児島	41.6	2
畜産	25.7	ブロイラー	48.5	鹿児島	19.8	1
		肉用牛	41.7	鹿児島	17.1	1
		豚	30.5	鹿児島	13.8	1

資料：農林水産省「令和元年生産農業所得統計」

九州産青果物の地域別出荷割合



資料：農林水産省「令和元年青果物卸売市場調査」

# 構造 — 農業産出額 —

## 【農業産出額は2年連続減少】

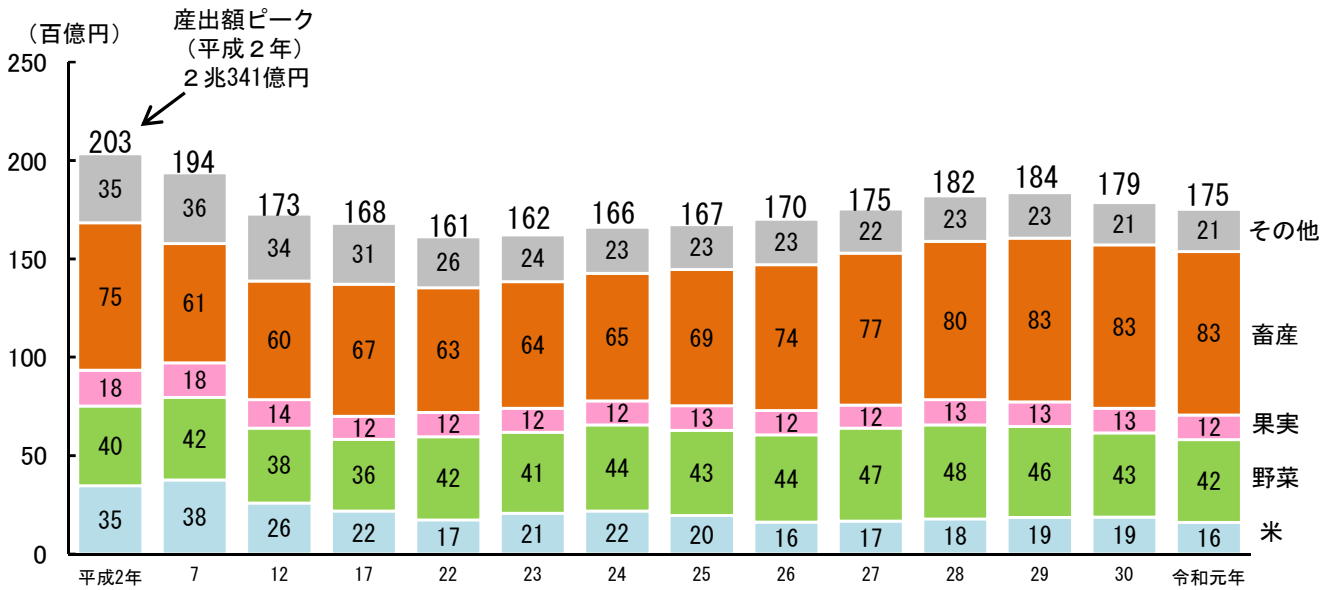
令和元（2019）年の九州の農業産出額は1兆7,520億円で、主に水稻の不作による生産量の減少、野菜の価格が低下したこと等により昨年に引き続き減少しています。

部門別にみると、全国に比べて米の割合が低く（全国19.6%、九州9.2%）、畜産の割合が高くなっています（全国36.1%、九州47.5%）。

このほか、温暖な気候を活かし、野菜や果実の生産など多様な農業が展開されています。

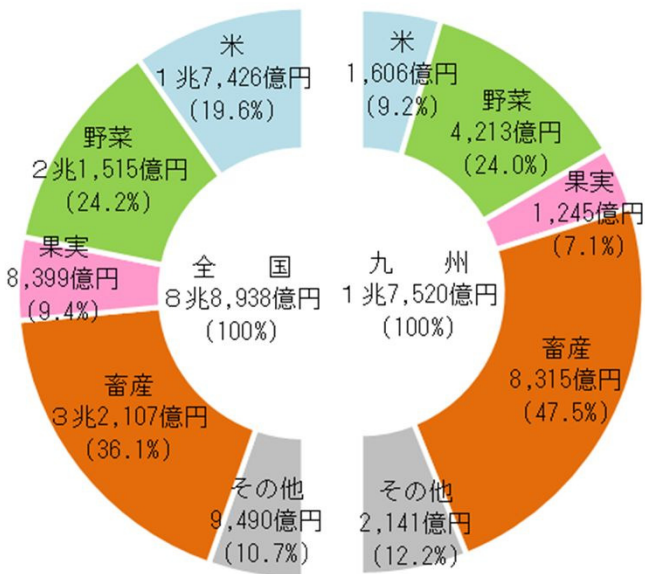
また、昭和40（1965）年の産出額と比較してみると九州の伸びは全国を大きく上回っており、特に野菜や畜産が大きく伸びています。

九州の農業産出額の推移



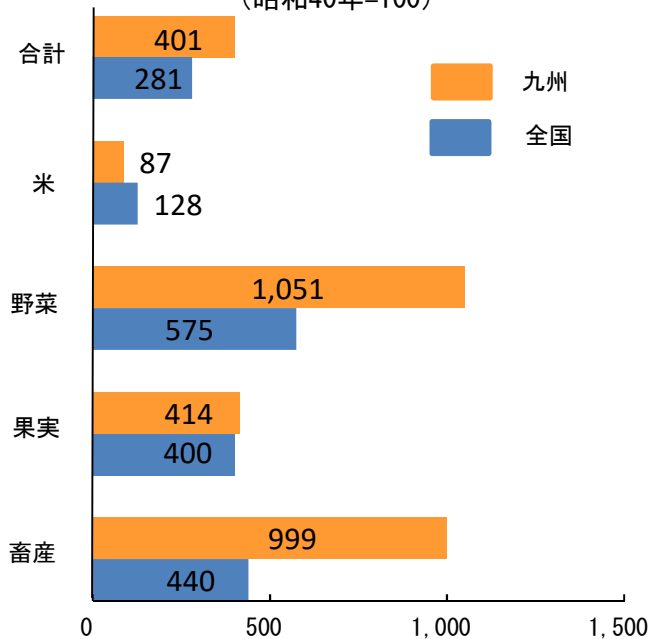
資料：農林水産省「生産農業所得統計」

農業産出額部門別割合（令和元（2019）年）



資料：農林水産省「生産農業所得統計」

農業産出額の令和元年と昭和40年の対比（昭和40年=100）



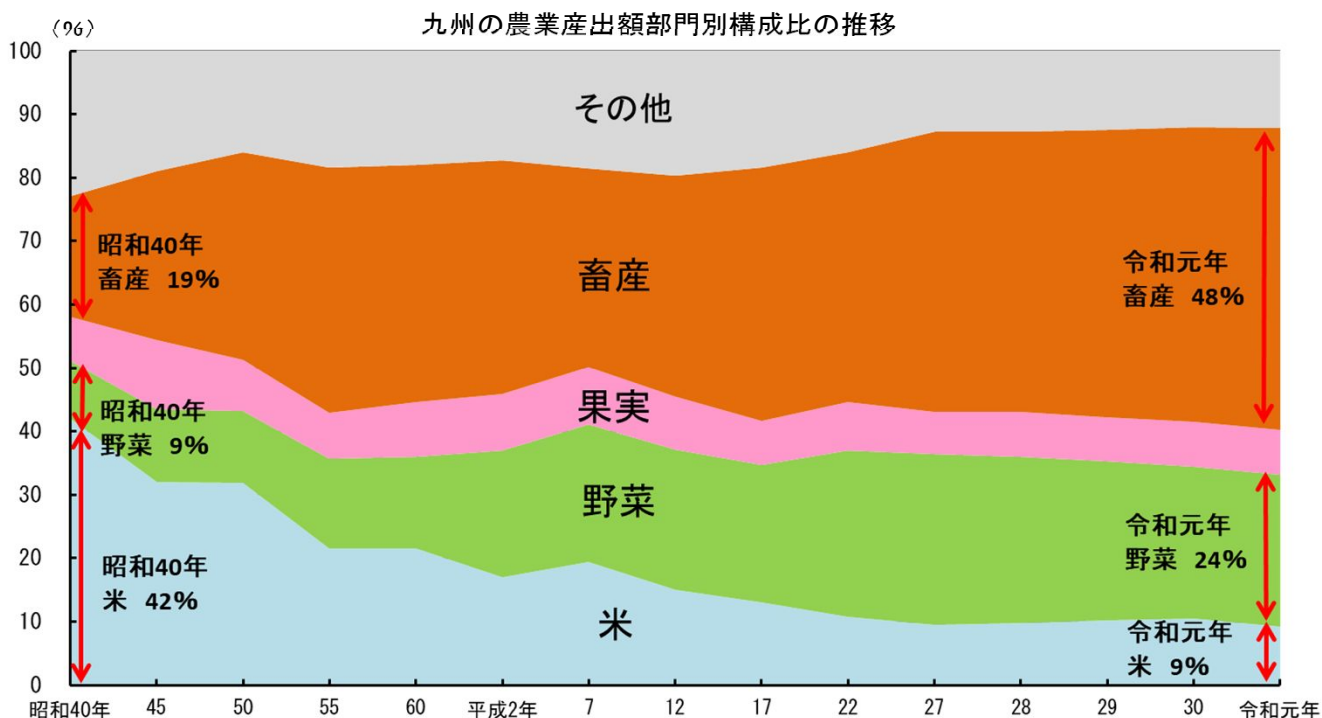
資料：農林水産省「生産農業所得統計」

### 【畜産や野菜が増加】

九州の農業産出額を部門別の構成比で見ると、昭和40（1965）年は19%だった畜産が令和元（2019）年には48%へと、野菜は9%から24%へと大幅に増加しました。

一方、米は42%から9%へと大幅に減少し、米を中心とした農業から野菜、畜産を中心とする農業へと推移しています。

その結果、農業産出額の全国上位10県に畜産や野菜の生産が盛んな鹿児島、宮崎、熊本の3県がランクインしています。



### 農業産出額全国上位10県の推移

単位：億円

	昭和40（1965）年	平成2（1990）年	令和元（2019）年
1位	北海道 2,033	北海道 11,175	北海道 12,558
2位	茨城 1,330	茨城 5,192	鹿児島 4,890
3位	新潟 1,274	千葉 4,838	茨城 4,302
4位	千葉 1,195	鹿児島 4,510	千葉 3,859
5位	福島 1,063	熊本 4,016	宮崎 3,396
6位	静岡 983	新潟 3,933	熊本 3,364
7位	埼玉 966	福島 3,747	青森 3,138
8位	長野 954	宮崎 3,745	愛知 2,949
9位	愛知 886	愛知 3,640	栃木 2,859
10位	宮城 886	岩手 3,478	岩手 2,676

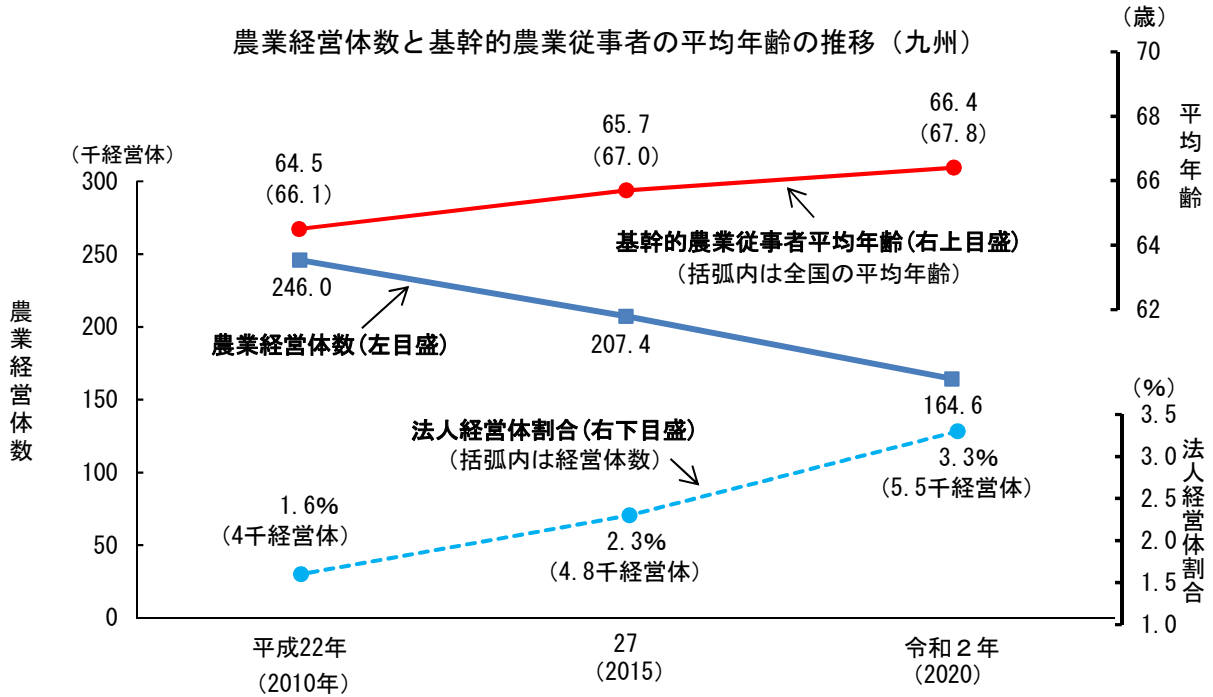
資料：農林水産省「生産農業所得統計」

# 構造 — 農業経営体 —

## 【農産物販売金額5,000万円以上の農業経営体の割合は全国を上回る】

九州における基幹的農業従事者の平均年齢は全国に比べ1.4歳若くなっていますが、平均年齢は66歳を超え、農業者の高齢化が進んでいます。また、農業経営体数は10年前に比べると約70%となっていますが、法人化している経営体は1.5千経営体（38%）増加しています。

また、九州各県では農産物販売金額5,000万円以上の農業経営体の割合が増加しており、佐賀県、熊本県、宮崎県及び鹿児島県が全国平均を上回っています。



資料：農林水産省「農林業センサス」

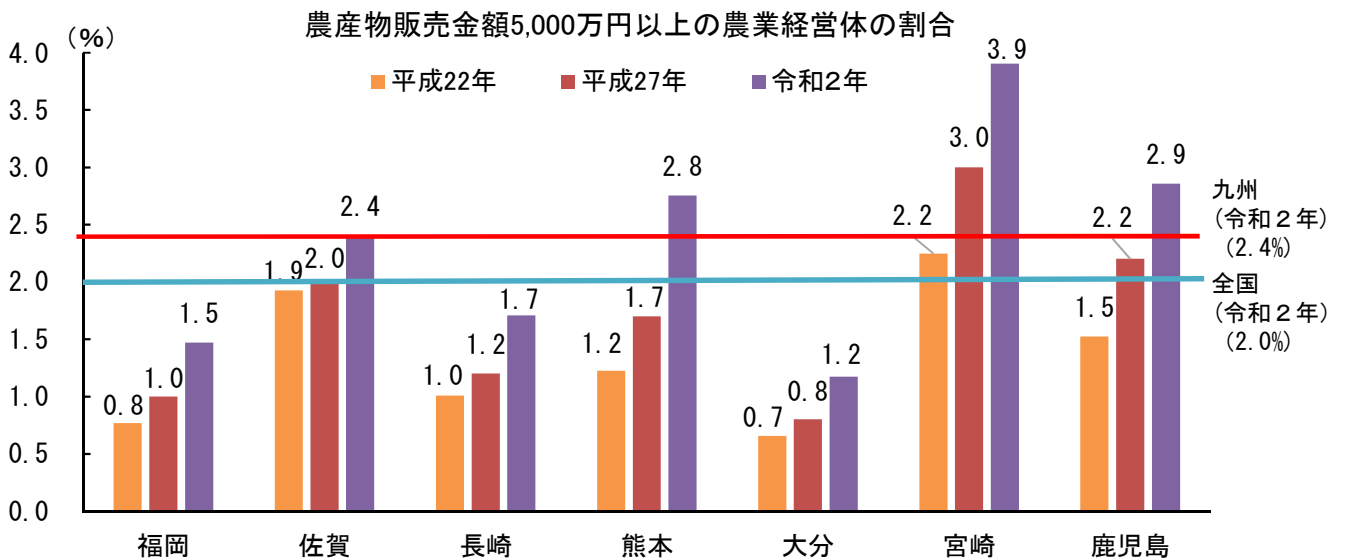
注1：基幹的農業従事者とは、自営農業に主として従事した世帯員のうち、普段の主な状態が「主に自営農業に従事」である者で、主に家事や育児を行う主婦や学生等は含まない。

注2：基幹的農業従事者平均年齢は平成27年、令和2年個人経営体の数値、平成22年販売農家の数値。

注3：農業経営体とは、経営耕地面積が30a以上の規模の農業、又は販売金額50万円以上に相当する規模の農業を行う者（農作業の受託を含む。）。うち個人（世帯）で事業を行う経営体（法人を除く）を個人経営体という。

注4：法人経営体とは、農業経営体のうち、法人化して事業を行う者。

注5：法人経営体割合＝法人経営体数／農業経営体数



資料：農林水産省「農林業センサス」



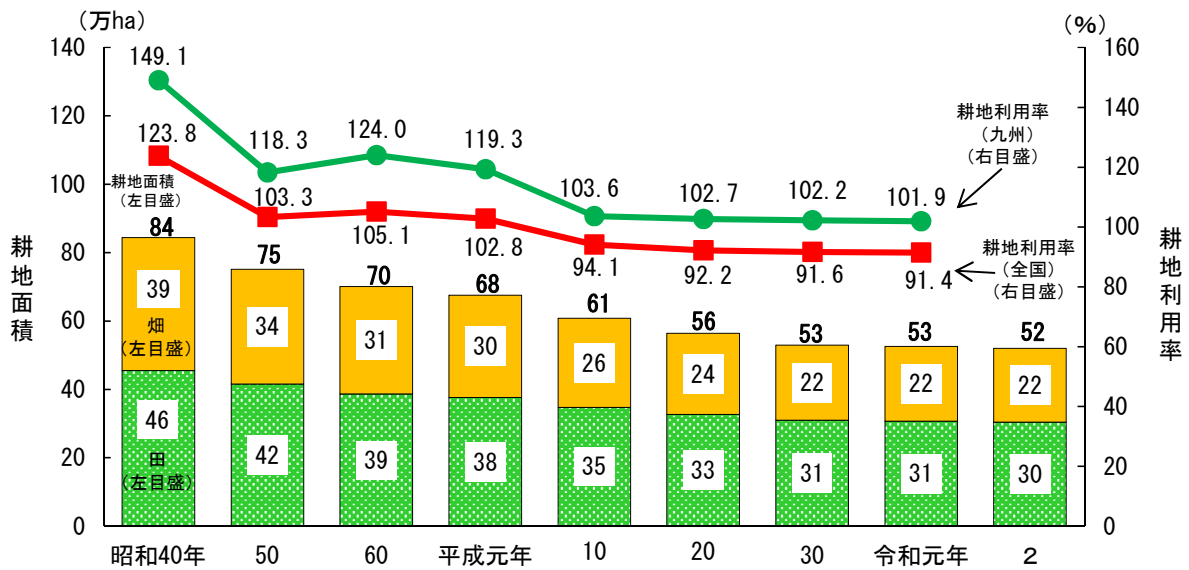
# 構造 — 耕地面積 —

## 【耕地面積は52万400ha、耕地利用率は101.9%】

九州の耕地面積は、全国（437万ha）の約1割を占めています。担い手の高齢化による荒廃農地の増加、宅地や道路への転用等の理由により、平成元（1989）年から16万ha減少していますが、荒廃農地対策の推進等もあり、減少幅は緩やかになってきています。

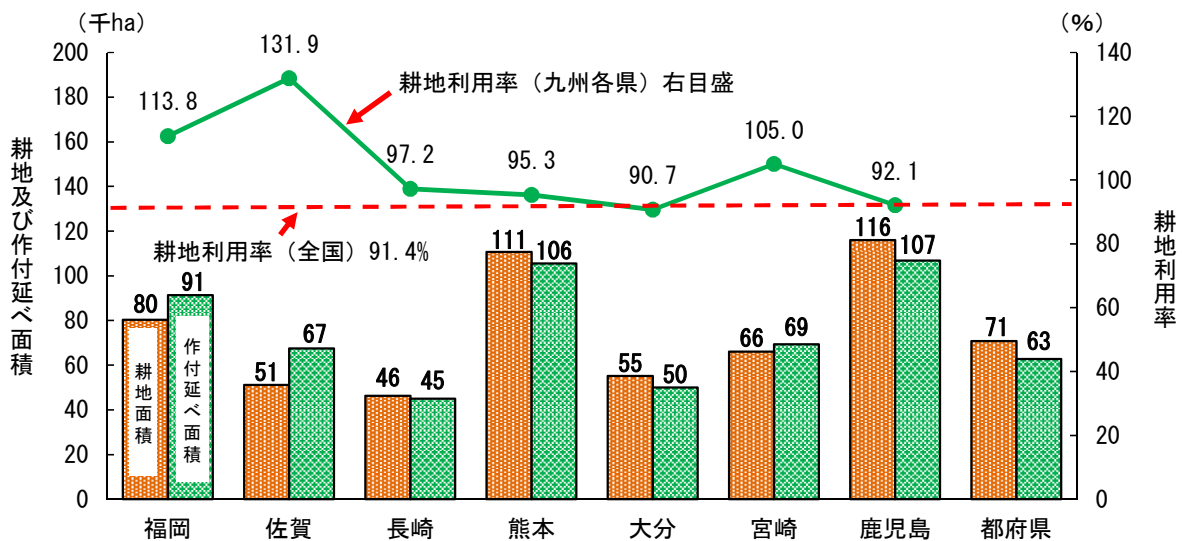
耕地利用率は全国平均91.4%を上回る101.9%となっています。特に、福岡県、佐賀県では水田を活用した裏作（麦）が行われ、宮崎県では飼料作物の年間複数回における作付けが盛んであることから100%を大きく上回っています。

耕地面積と耕地利用率の推移（九州）



資料：農林水産省「耕地及び作付面積統計」

耕地及び作付延べ面積と耕地利用率（令和元年(2019)年）



資料：農林水産省「耕地及び作付面積統計」

注：都府県は1県当たりの平均値です。

# 生産 — 米 —

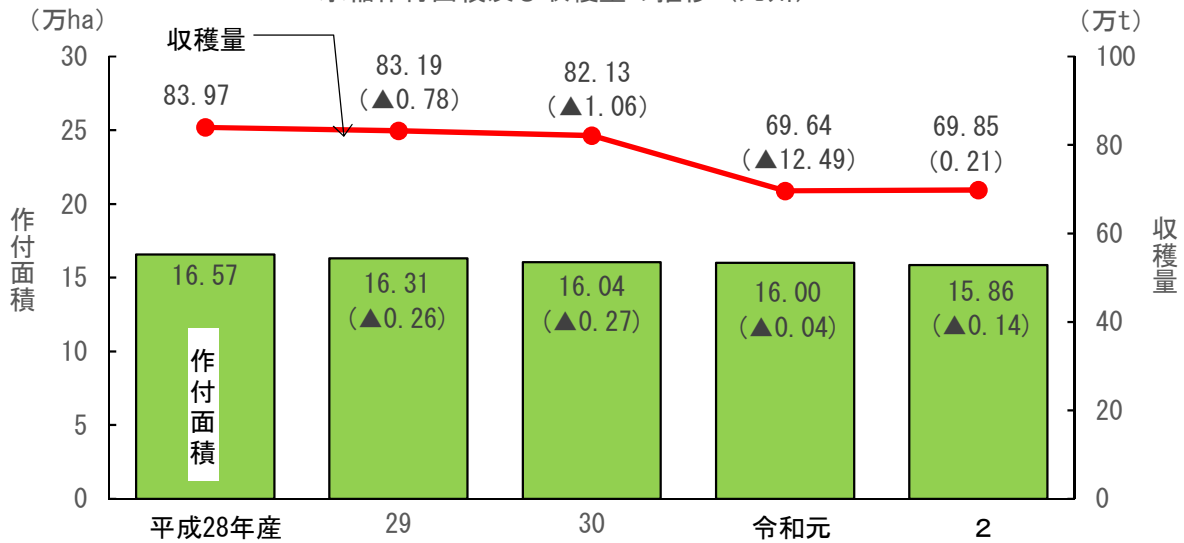
【水稻の収穫量（子実用\*）は69万8,500 t（前年産に比べ2,100 t 増加）】

令和2（2020）年産水稻の九州の作付面積（子実用）は、15万8,600haで前年産に比べ1,400 ha減少しました。作柄は、日照不足等により穂数及び全もみ数が少ないことに加え、台風やトビイロウンカによる被害等の影響から、10 a 当たり収量は、440kg（作況指数85）で、収穫量（子実用）は、作柄が悪かった前年産と同レベルの69万8,500 t となり、前年産に比べ2,100 t の増加にとどまりました。

なお、「令和2年産米の食味ランキング（（一財）日本穀物検定協会）では、九州管内で8銘柄が最高評価の「特A」を獲得しています。

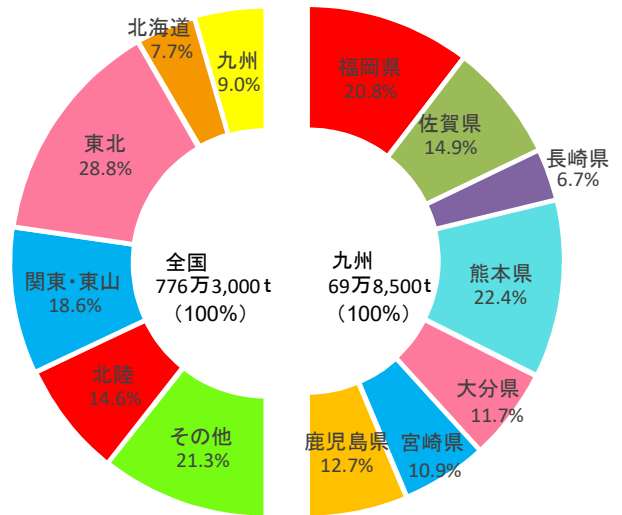
\* 主に食用に供すること（子実生産）を目的とするものをいい、全体から「青刈り」を除いたものをいう。

水稻作付面積及び収穫量の推移（九州）

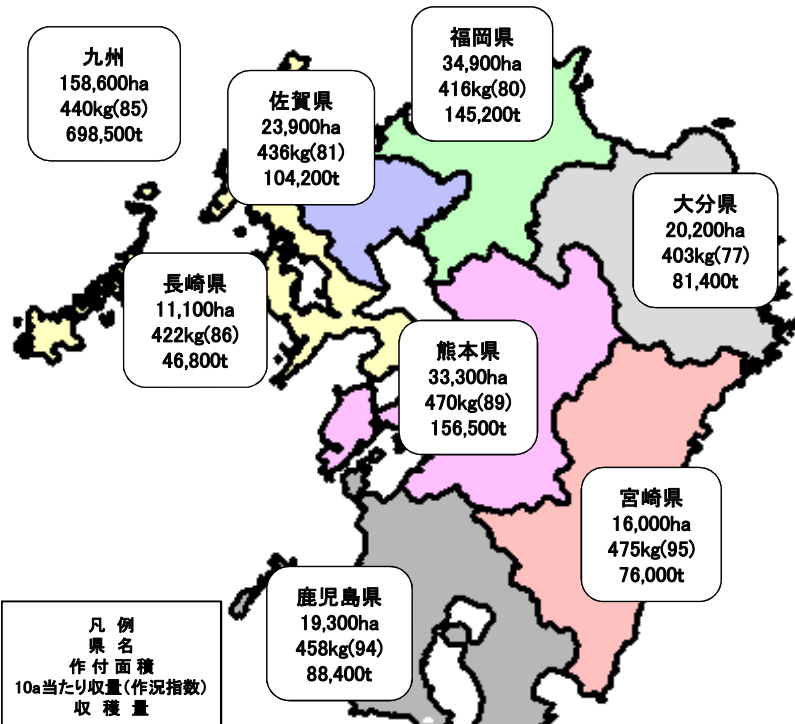


資料：農林水産省「作物統計」  
注：（）は対前年差

令和2年産収穫量  
全国及び九州内割合



管内県別作付面積及び収穫量



資料：九州農政局作成

令和2年産食味試験結果(九州管内「特A」一覧)

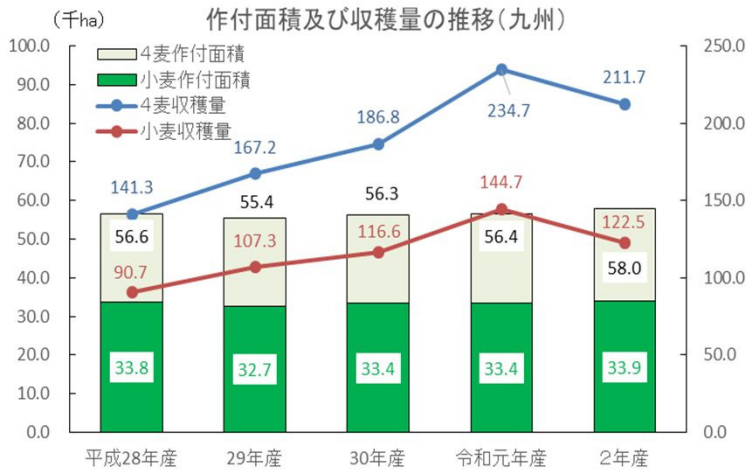
産地	品種名	地区
福岡県	元気つくし	
佐賀県	夢しずく	
長崎県	さがびより	
	にこまる	
熊本県	なつほのか	
	くまさんの力	県南
宮崎県	ヒノヒカリ	西北山間
		霧島
鹿児島県	あきほなみ	県北

# 生産 — 麦類・大豆 —

## 【4麦の作付面積は、前年産に比べ1,600ha増加】

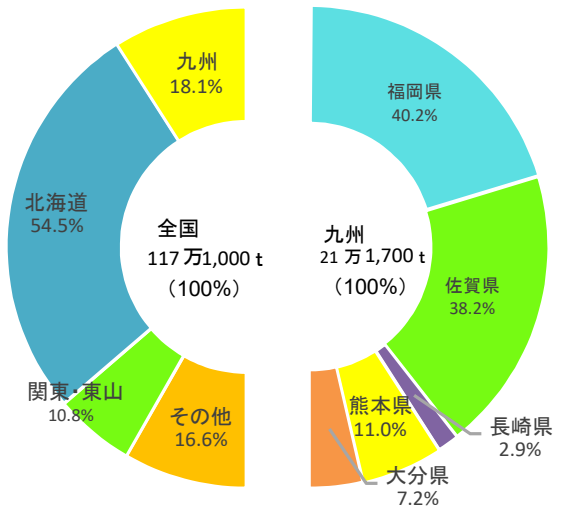
令和2（2020）年産4麦計（子実用\*）（小麦、二条大麦、六条大麦及びはだか麦）の作付面積は5万8,000haで前年産に比べ1,600ha増加、収穫量は21万1,700 tで、平年に比べ良好な作柄ではあるものの、前年産に比べ2万3,000 t減少しました。九州の全国に占める割合は、18.1%となっており、福岡、佐賀、熊本で9割を生産しています。4麦の中で最も多い小麦の作付面積は、3万3,900haで前年産に比べ500ha増加し、収穫量は12万2,500 tとなりました。平年に比べ天候に恵まれ、生育が順調で登熟も良好であったものの、作柄が特に良かった前年産よりは、2万2,200 t減少しています。

\* 主に食用にすること（子実生産）を目的とするものをいう。



資料：農林水産省「作物統計」

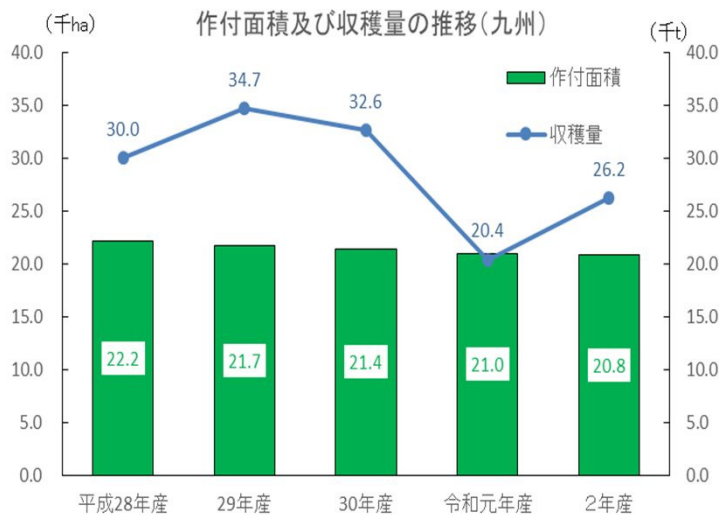
## 令和2年産収穫量 全国及び九州内割合



## 【大豆の収穫量は、前年産に比べ5,800 t 増加】

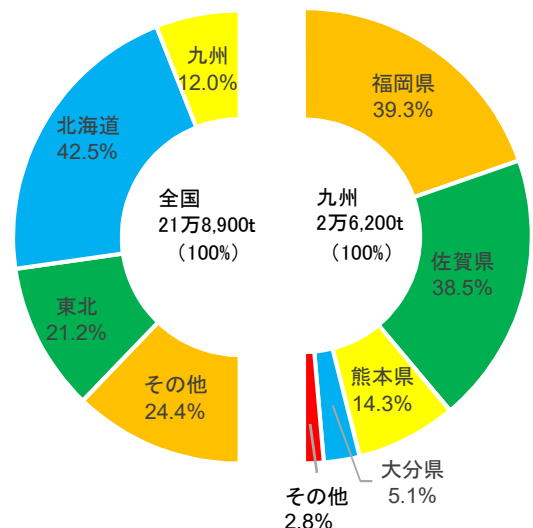
令和2（2020）年産大豆（乾燥子実\*）の作付面積は2万800haで前年産に比べ200ha減少、収穫量は2万6,200 tで前年産に比べ5,800 t増加しました。九州の全国に占める割合は、12%となっており、福岡、佐賀、熊本で9割強を生産しています。主産地の福岡県及び佐賀県において播種時期の降雨等により平年よりも作柄は悪かったものの前年産からは改善しました。

\* 豆類で食用を目的に未成熟（完熟期以前）で収穫されるもの（えだまめ、さやいんげん等）を除いたものをいう。



資料：農林水産省「作物統計」

## 令和2年産収穫量 全国及び九州内割合



# 生産 — 野菜 —

## 【九州は重要な野菜供給基地】

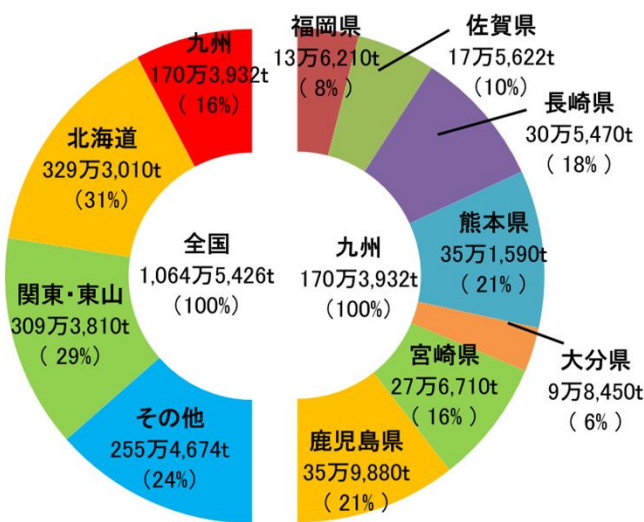
九州では、温暖な気候を生かした野菜の栽培が盛んです。令和元（2019）年産の九州における指定野菜\*（14品目）の収穫量は、ピーマン、トマト等の施設野菜やさといも、だいこん等の露地野菜を中心に、全国の16.0%、産出額では19.6%を占めています。九州の産出額に占める野菜の割合は24.0%で、畜産の47.5%に次ぐ重要な品目となっています。

産出額で全国に占める割合が高い品目は、ピーマン（38.8%、宮崎県全国2位、鹿児島県全国4位）、トマト（28.8%、熊本県全国1位）、きゅうり（24.1%、宮崎県全国1位）、ばれいしょ（23.2%、鹿児島県全国2位、長崎県全国3位）の順となっています。指定野菜以外では、いちご（35.7%、福岡県全国2位、熊本県全国3位、長崎県全国4位）、かんしょ（30.0%、鹿児島県全国3位、宮崎県全国5位）、すいか（27.0%、熊本県全国1位）などです。

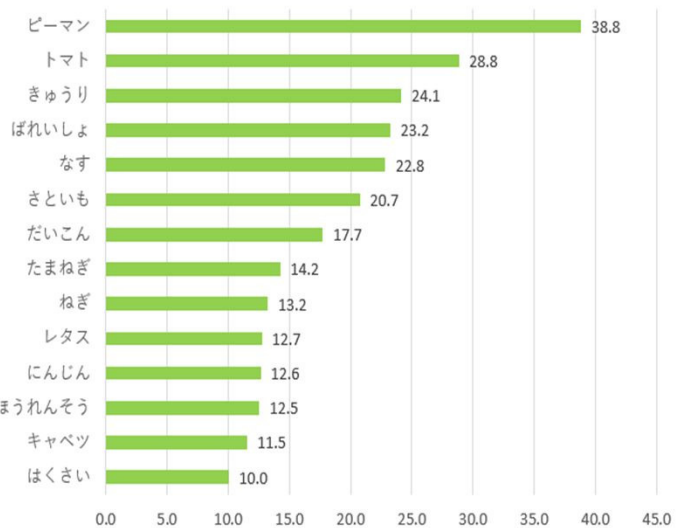
なお、令和元年の九州の算出額については、全国の産出額が前年より低くなったことに対し、九州の産出額が前年とほぼ同額だったことから、全国に占める割合が1.2%高く推移しています。

\*指定野菜とは、野菜のうち特に消費量の多いもの（下右のグラフの14品目）

令和元年  
指定野菜収穫量の全国シェア及び九州内割合



令和元年  
九州の指定野菜産出額の全国シェア

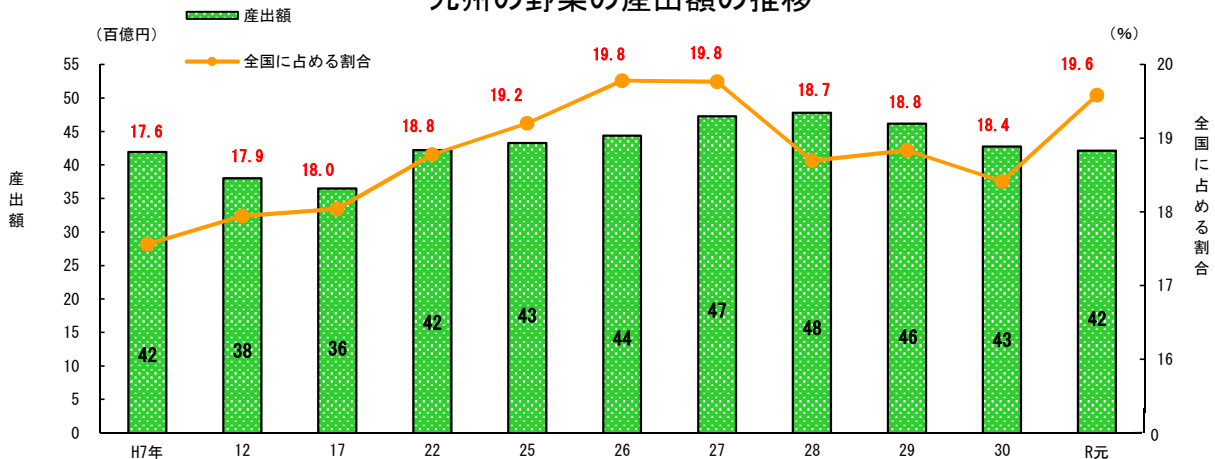


資料：農林水産省「野菜生産出荷統計」

注：主産県調査のため、非主産県の収穫量は含まれない

資料：農林水産省「生産農業所得統計」

## 九州の野菜の産出額の推移



資料：農林水産省「生産農業所得統計」



# 生産 — 果樹 —

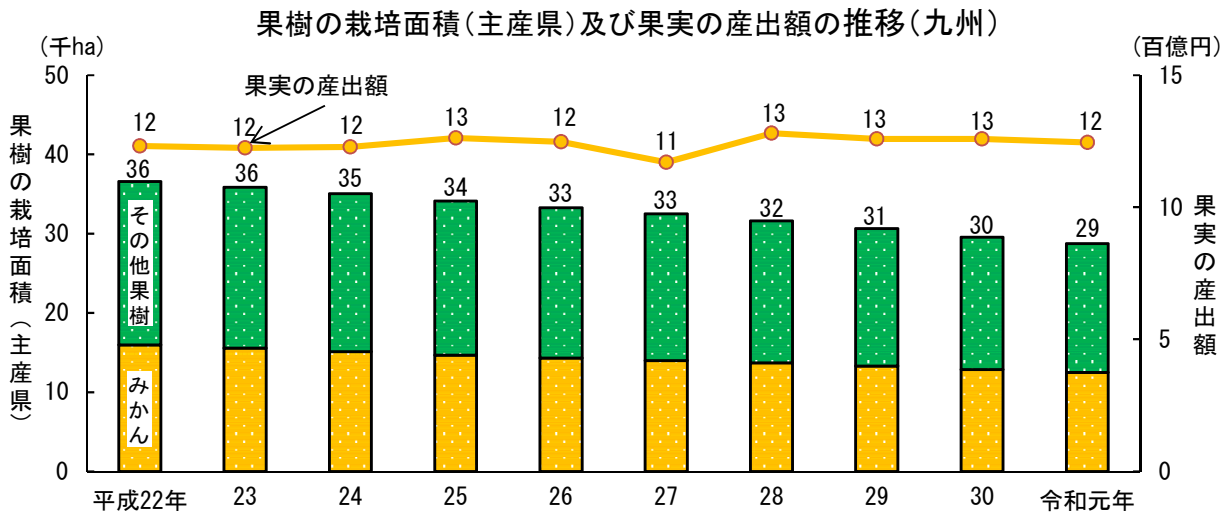
## 【栽培面積は減少傾向にあるものの産出額は横ばい】

九州における果樹の栽培面積（主産県）は、生産者の高齢化や担い手不足の進行による栽培農家数の減少に伴い、緩やかな減少傾向にあり、令和元（2019）年は2万8,700haとなっています。一方、果実の産出額は、高品質な果実の生産が行われていることから、ほぼ横ばいの1,245億円となっています。

特に九州が全国の収穫量の約3割を占めるみかんでは、結果樹面積が1万1,900haで前年産に比べ400ha（3%）減少しており、収穫量は23万5,800tで前年産に比べ7,100t（3%）減少しています。また、九州産の収穫量のうち、熊本県、長崎県、佐賀県で8割近くを占めています。

その他果実の産出額は、ぶどう146億円（全国の9.5%）、日本なし94億円（同13.9%）、不知火98億円（同67.6%、熊本県全国1位）、マンゴー48億円（同65.8%宮崎県全国1位）となっています。

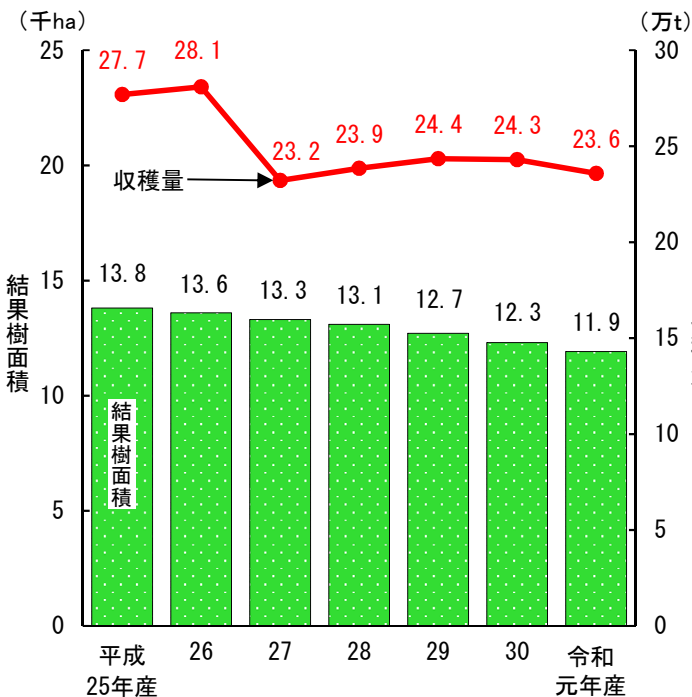
\* 主産県とは、全国の栽培面積のおおむね80%を占めるまでの上位都道府県又は果樹共済事業を実施する都道府県



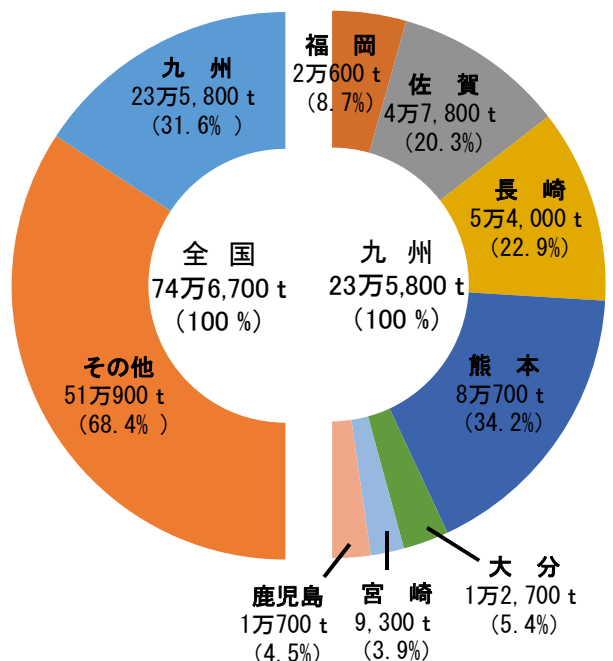
資料：農林水産省「生産農業所得統計」「耕地及び作付面積統計」

注：その他果樹は、かんきつ類の果樹、くり、かき、日本なし、ぶどう、うめ、びわ、キウイフルーツ、すもも

### みかん結果樹面積及び収穫量の推移（九州）



### 令和元（2019）年産 みかん収穫量の全国及び九州内割合



資料：農林水産省「果樹生産出荷統計」



# 生産 — 花き —

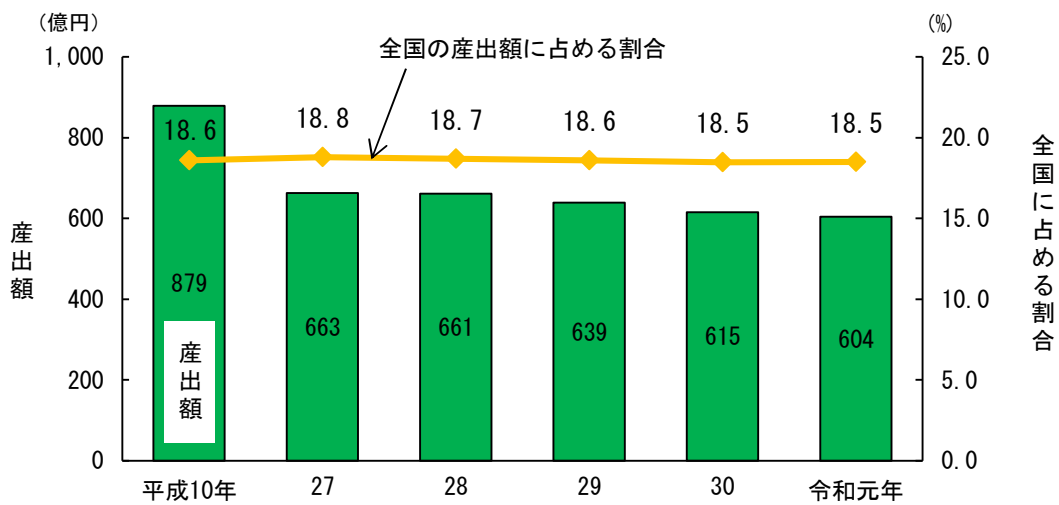
## 【栽培面積、産出額とも漸減傾向】

九州における令和元（2019）年の花きの産出額は、平成10（1998）年のピーク時の約69%の604億円で全国の18.5%を占めています。最近では生産者の高齢化による作付面積の減少が続いていることから漸減傾向で推移しています。

令和元（2019）年産切り花の作付面積は2,422haで、前年に比べ64ha（2.6%）減少しています。出荷量は7億3,800万本で、前年に比べ800万本（1.1%）減少しているものの、全国のシェアは21.2%を占めています。

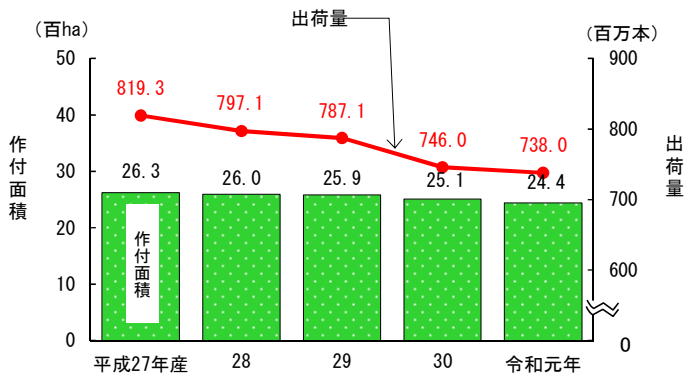
県別出荷量をみると、洋ランやガーベラ等の生産が盛んな福岡県、キクやユリ等の生産が盛んな鹿児島県の両県で九州の47%を占めています。

九州における花きの産出額及び全国に占める割合の推移

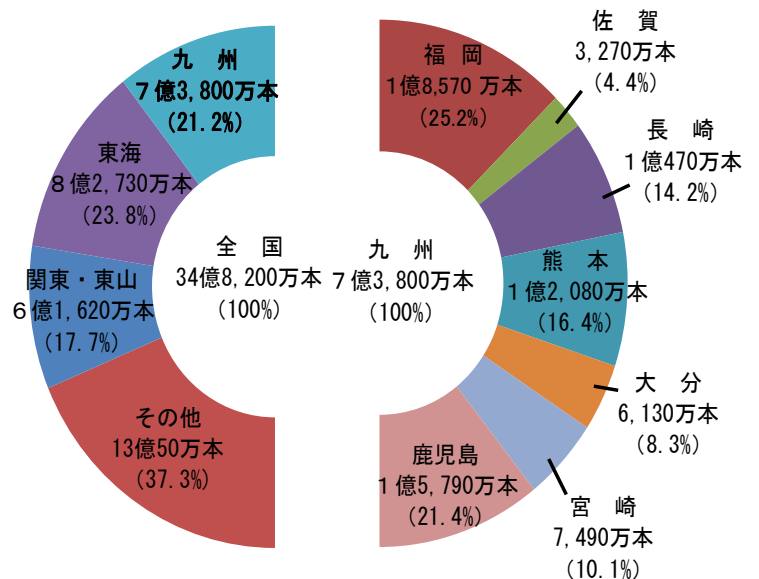


資料：農林水産省「生産農業所得統計」

花き（切り花類）作付面積及び出荷量の推移（九州）



令和元（2019）年産花き（切り花類）出荷量の全国及び九州内割合



資料：農林水産省「花き生産出荷統計」

# 生産 — 地域特産作物 —

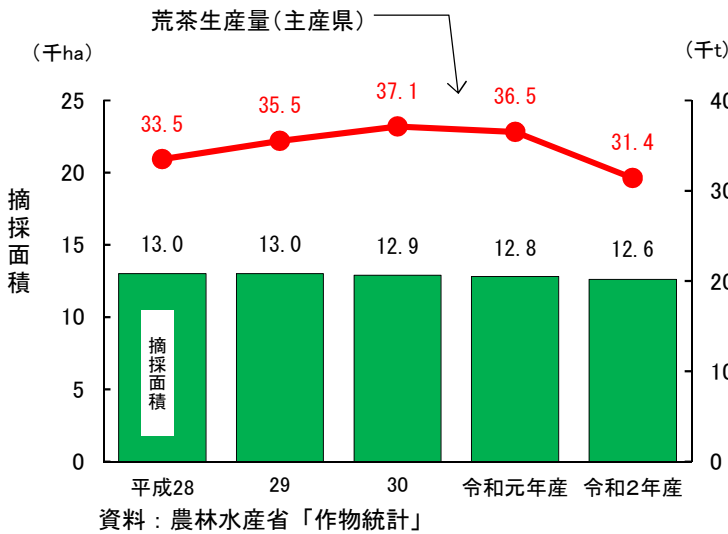
## 【茶：九州の荒茶生産量は、前年産に比べ14%減少】

九州の令和2（2020）年産茶の摘採面積（主産県\*）は1万2,600haで前年産並みとなっている一方、荒茶生産量は、前年産に比べ5,095t（14%）減少し3万1,400tとなっています。

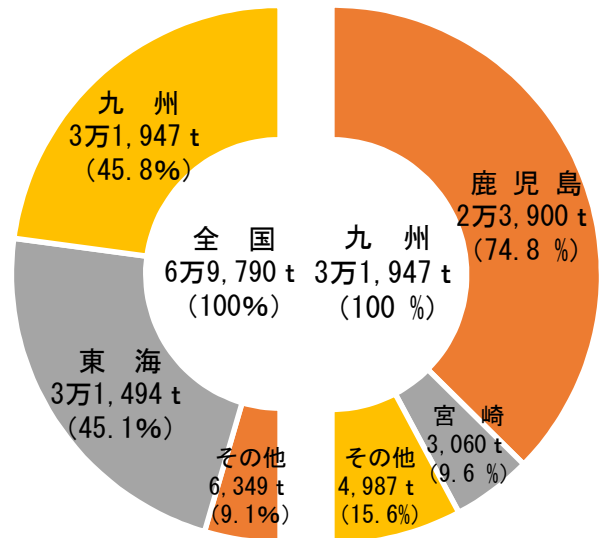
九州の荒茶生産量は全国の45.8%を占めており、その中でも鹿児島県は、九州全体の7割以上を占めるなど、全国第2位の産地が形成されています。また、令和元（2019）年の産出額では静岡県を抜いて、初めて全国第1位となりました。その他、宮崎県、福岡県、佐賀県でも、煎茶やかぶせ茶等の生産、加工が盛んです。

\* 九州（主産県）は、福岡、佐賀、長崎、熊本、宮崎、鹿児島 of 合計値

茶摘採面積及び荒茶生産量の推移(九州(主産県))



令和2（2020）年産  
荒茶生産量の全国及び九州内割合

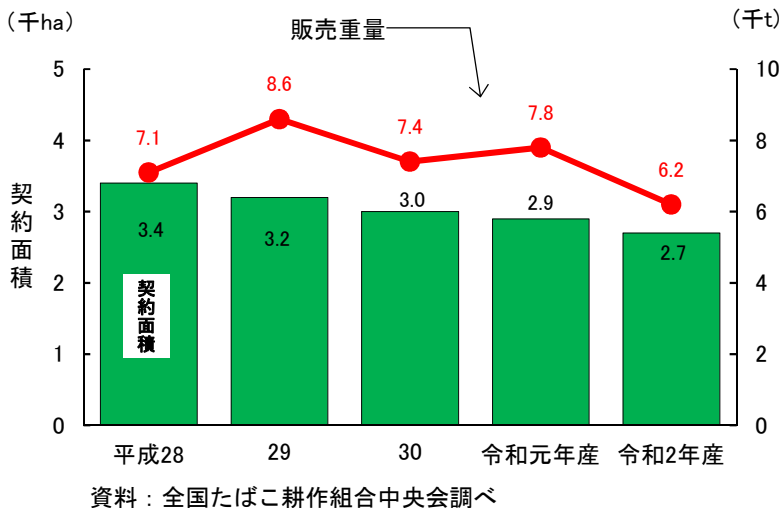


## 【葉たばこ：需要の低下に伴い契約面積は減少】

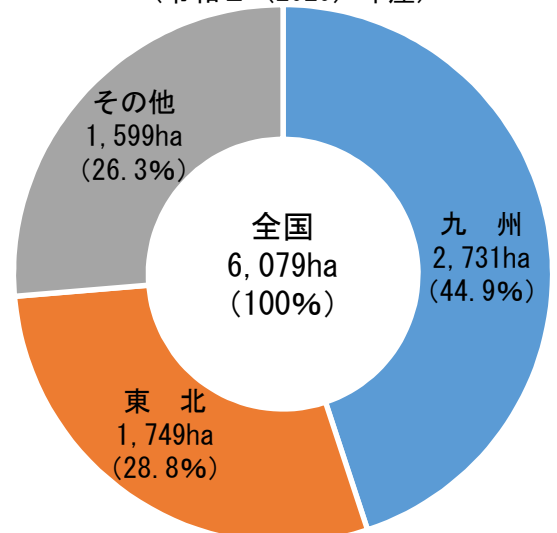
九州では温暖な気候から葉たばこの栽培が盛んですが、国民の健康志向の高まりによる葉たばこ販売数量の減少に伴い、全国の葉たばこ契約面積は年々減少しており、販売重量についても、前年産に比べ1,600t（20%）減少し、6,200tとなっています。

また、九州における令和2（2020）年産の契約面積は2,731haで全国の45%を占めています。

葉たばこ契約面積及び販売重量の推移(九州)



契約面積の全国シェア  
(令和2（2020）年産)

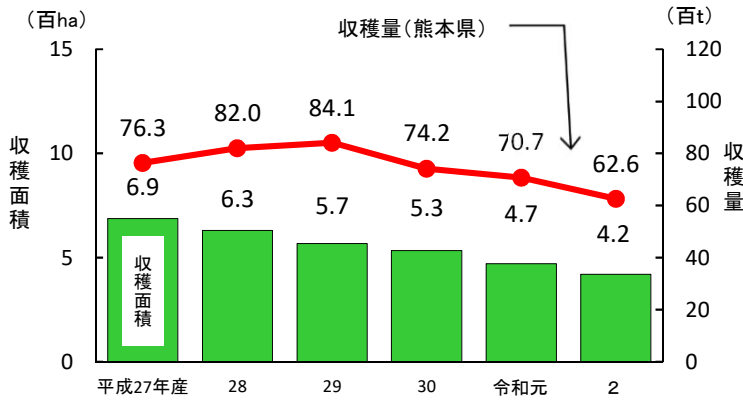


### 【いぐさ：熊本県八代地域の基幹的作物】

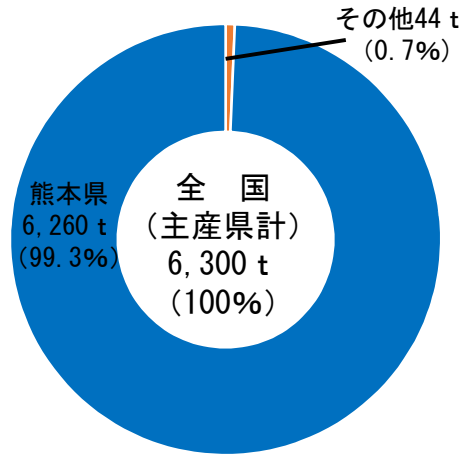
いぐさの主産地は熊本県八代地域で、関連産業も含め地域経済を支える基幹作物です。令和2（2020）年産の熊本県のいぐさ収穫量は、全国（主産県\*計）の99.3%を占めています。一方、生活様式の洋風化や景気低迷に伴う畳表の需要減少や中国産畳表との競合、さらに生産農家の高齢化等により栽培農家数が減少し、いぐさの収穫面積は減少が続いています。

\* 主産県は熊本県及び福岡県

い草収穫面積及び収穫量の推移（熊本県）



収穫量の全国シェア（令和2（2020）年）

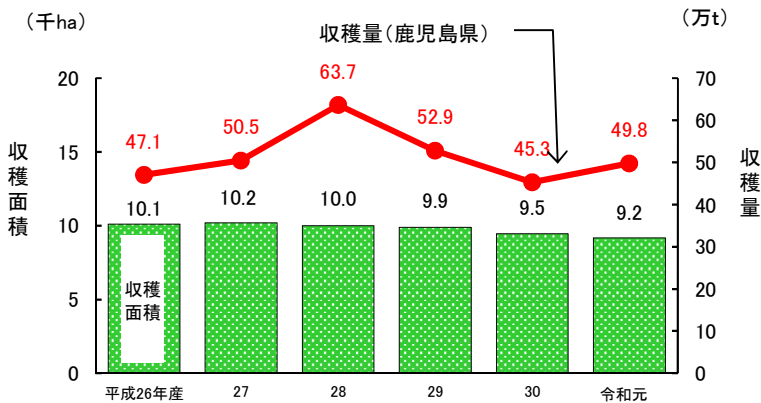


資料：農林水産省「作物統計」

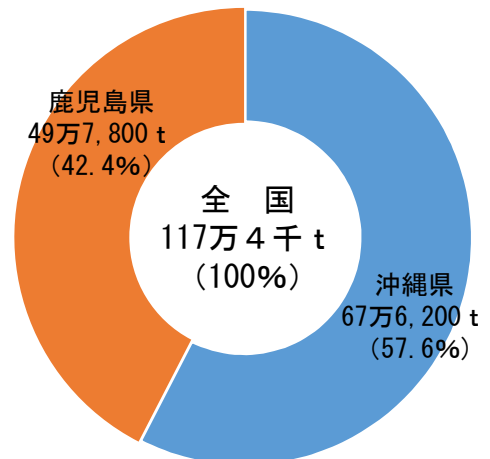
### 【さとうきび：鹿児島県南西諸島の基幹的作物】

さとうきびは、鹿児島県南西諸島及び沖縄県の基幹作物として栽培されています。近年、鹿児島県のさとうきび収穫面積は減少傾向で推移しており、令和元（2019）年産の収穫面積は9,170haとなりました。一方、収穫量は、台風等気象災害の影響が大きかった前年産に比べ約4万5,000t（9.9%）増加し、49万7,800tとなりました。

さとうきび収穫面積及び収穫量の推移（鹿児島県）



収穫量の全国シェア（令和元（2019）年）



資料：農林水産省「作物統計」

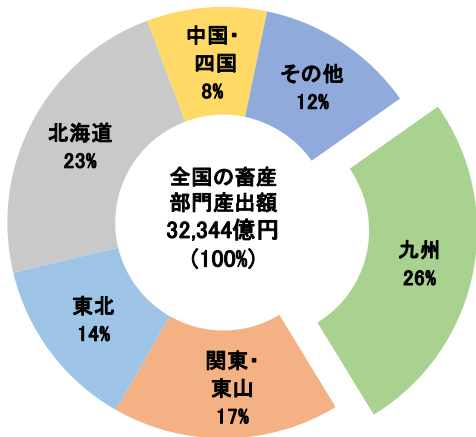
# 生産 — 畜産 —

## 【日本最大の畜産地帯】

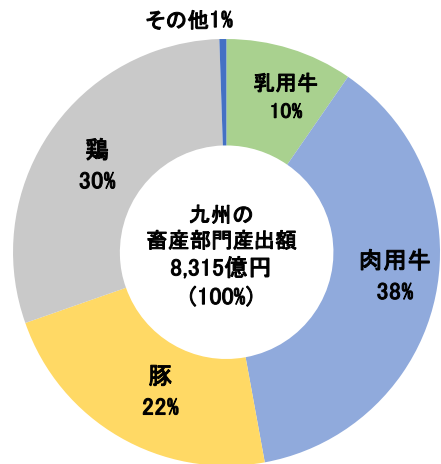
九州の畜産部門の農業産出額は、全国の約26%を占めており、畜種別では、高い順に肉用牛、鶏（鶏卵及びブロイラー）、豚、乳用牛となっています。

また、九州は、肉用牛、豚及びブロイラーの畜種別農業産出額の割合は、それぞれ全国の約4割、約3割、約5割を占める農業地域別での第1位の生産地域であり、我が国最大の食肉供給基地となっています。

農業産出額の畜産部門の  
全国割合(令和元(2019)年)



九州の畜産部門産出額の  
畜種別割合(令和元(2019)年)

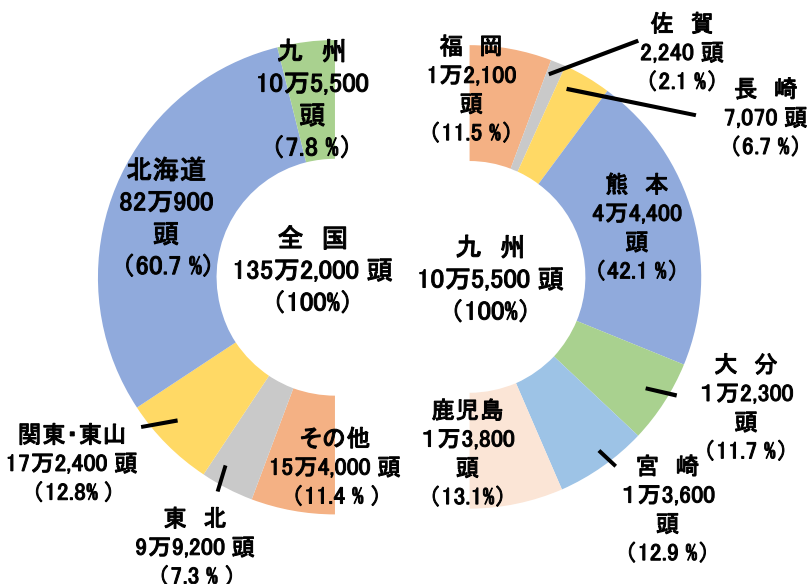


資料：農林水産省「生産農業所得統計」

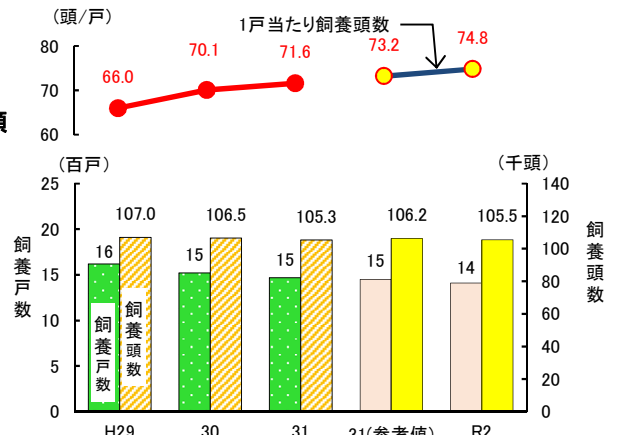
## 【乳用牛】

乳用牛の飼養頭数は近年減少傾向で推移しており、令和2(2020)年は平成31年(参考値)に比べ700頭減少し10万5,500頭となりました。県別の飼養頭数では熊本県が全国第3位となっています。

飼養頭数の全国及び九州内割合  
(令和2(2020)年2月1日現在)



飼育戸数、飼育頭数の推移(九州)



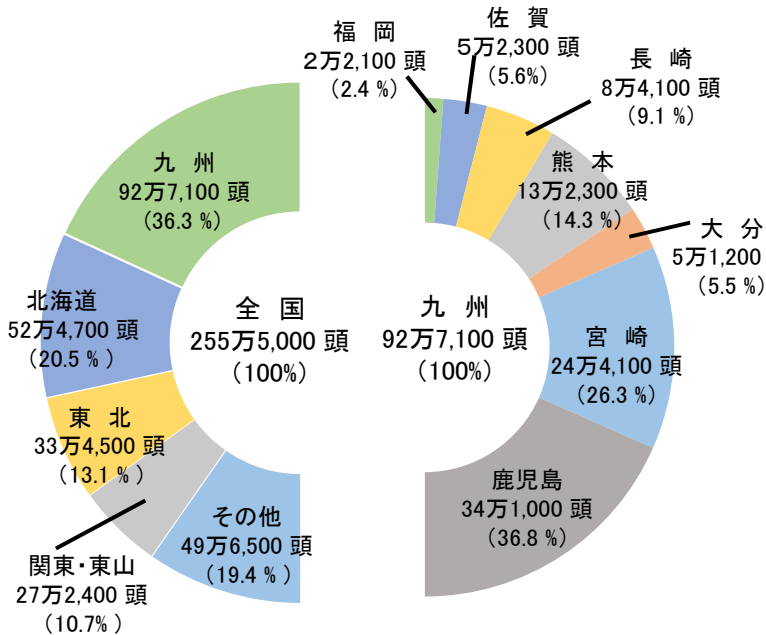
資料：農林水産省「畜産統計」

※令和2年から統計手法が変更されたため、令和2年の統計手法を用いて集計した平成31年の数値を参考値として記載。

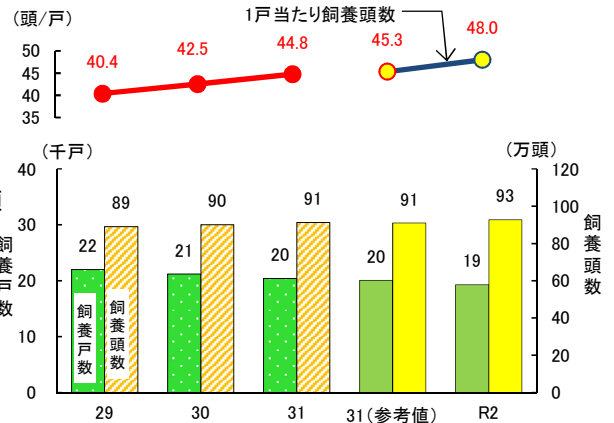
## 【肉用牛】

肉用牛の飼養頭数は近年減少傾向で推移していたが、各般の生産基盤強化対策の実施により、平成29（2017）年から4年連続で増加し、令和2（2020）年は平成31年（参考値）に比べ17,100頭増加し92万7,100頭となりました。九州は全国の飼養頭数の1/3強を占めており、県別の飼養頭数では鹿児島県が全国第2位、宮崎県が同3位、熊本県が同4位となっています。

飼養頭数の全国及び九州内割合  
(令和2（2020）年2月1日現在)



飼養戸数、飼養頭数の推移(九州)



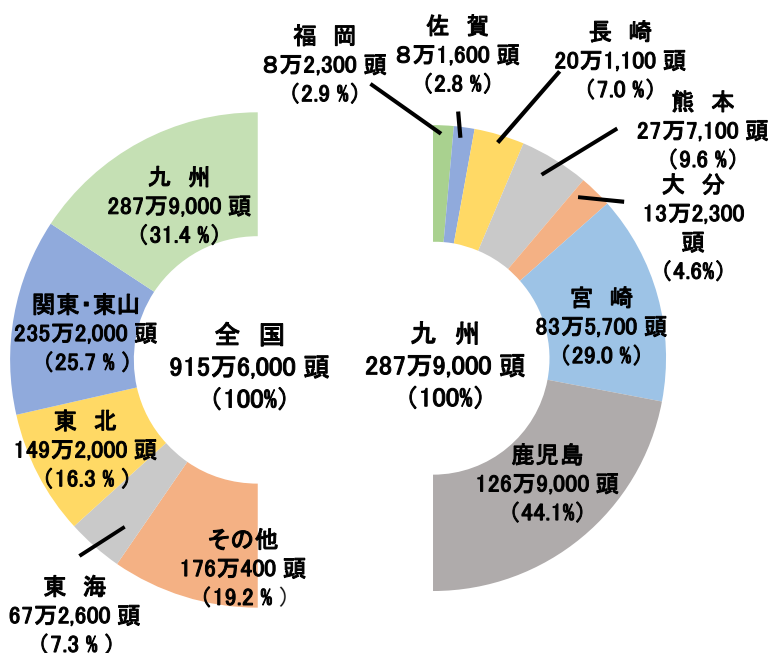
資料: 農林水産省「畜産統計」

※令和2年から統計手法が変更されたため、令和2年の統計手法を用いて集計した平成31年の数値を参考値として記載。

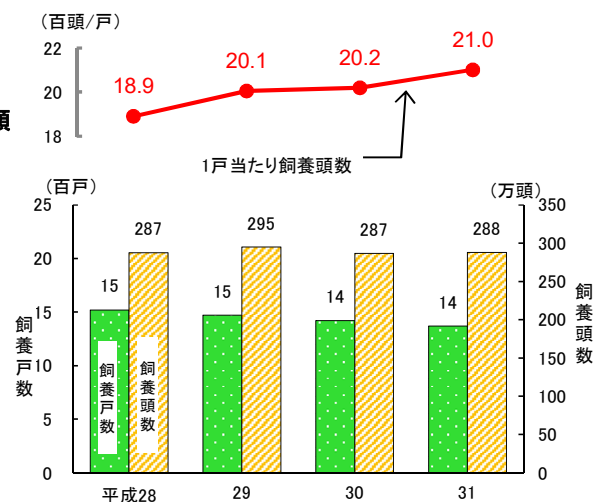
## 【豚】

飼養頭数は平成25（2013）年以降減少傾向で推移しているが、平成31（2019）年は前年に比べ1万2,000頭増加し287万9,000頭となりました。県別の飼養頭数では鹿児島県が全国第1位、宮崎県が同2位となっています。

飼養頭数の全国及び九州内割合  
(平成31年（2019）年2月1日現在)



飼養経営体数、飼養頭数の推移(九州)



資料: 農林水産省「畜産統計」

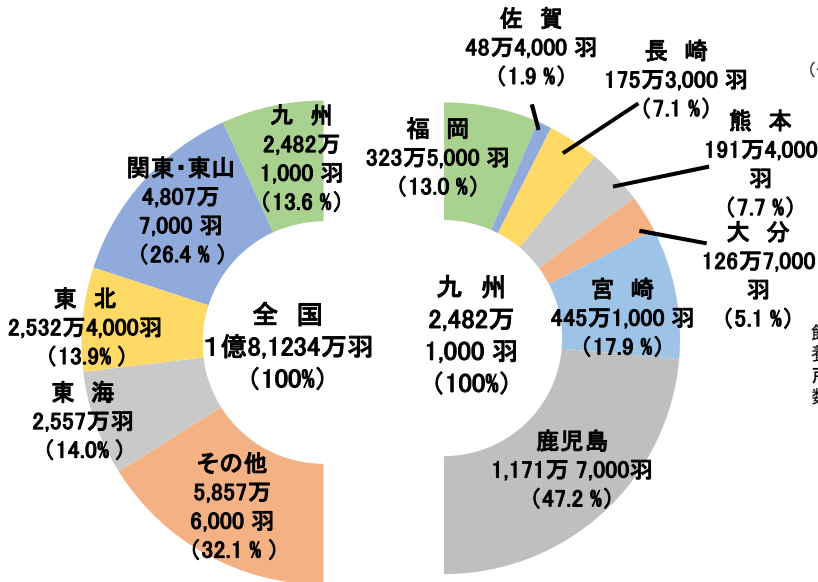
注: 令和2年は、農林業センサス実施年のため「豚」の調査休止。



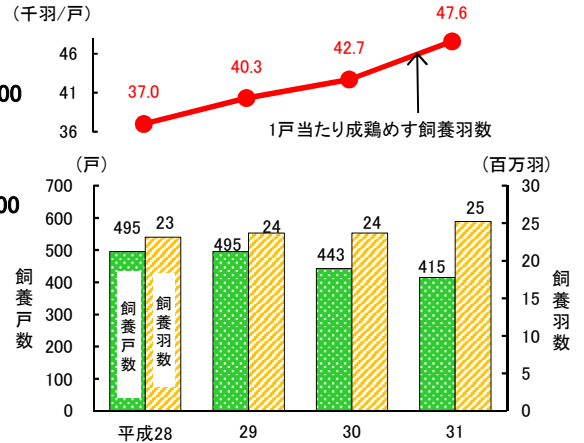
### 【採卵鶏】

近年の飼養羽数は、ほぼ横ばいで推移しており、平成31（2019）年は前年に比べ113万羽増加し2,482万1,000羽となりました。県別の飼養羽数では鹿児島県が全国第3位となっています。

飼養羽数の全国及び九州内割合  
(平成31年（2019）年2月1日現在)



飼養戸数、飼養羽数の推移(九州)

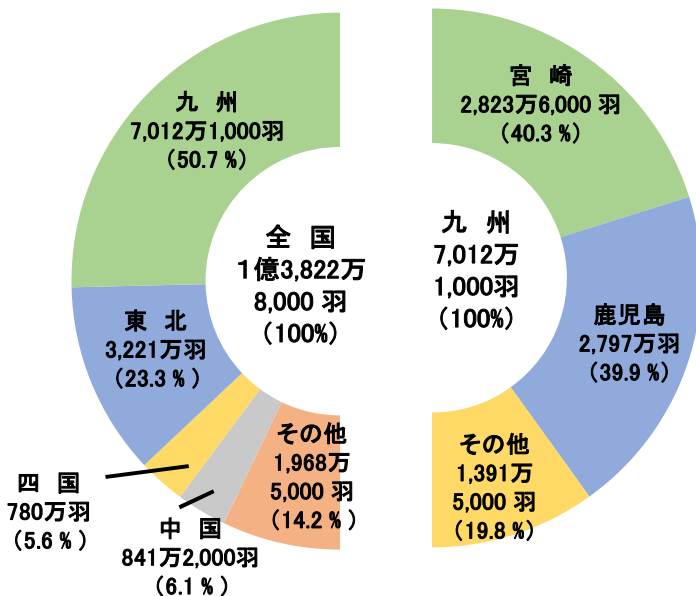


資料：農林水産省「畜産統計」  
注：令和2年は、農林業センサス実施年のため「採卵鶏」の調査休止。

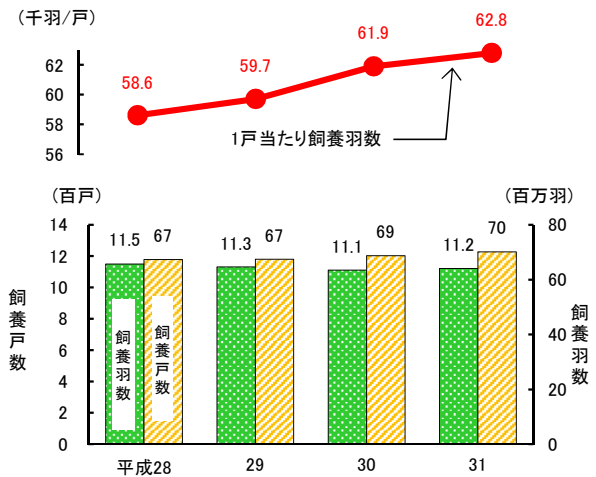
### 【ブロイラー】

近年の飼養羽数は、ほぼ横ばいで推移しており、平成31（2019）年は前年に比べ137万1,000羽増加し7,012万1,000羽となりました。県別の飼養羽数では、宮崎県が全国1位、鹿児島県が同2位となっています。

飼養羽数の全国及び九州内割合  
(平成31年（2019）年2月1日現在)



飼養戸数、飼養羽数の推移(九州)



資料：農林水産省「畜産統計」  
注：令和2年は、農林業センサス実施年のため「ブロイラー」の調査を休止。